古典探究	単位数	４単位	学科・学年・学級	

１　学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

２　使用教科書など

使用教科書	東京書籍「精選古典探究　古文編・漢文編」（古探 002-903・002-904）
副教材など	「精選古典探究 古文編 学習課題ノート」「精選古典探究 漢文編 学習課題ノート」（準拠ノート）／「新総合図説国語」／「新精選古典文法」／「新精選古典文法　実戦ノート」／「新精選古典文法　演習ノート」／「新精選古典文法　準拠ノート」／「新徹底理解高校漢文」／「新徹底理解高校漢文ワーク」／古語辞典／その他、QR コンテンツ（教科書）、指導用 DVD-ROM 収録の補助資料など

３　評価の３観点と学習指導要領との対応

平成 30 年告示の学習指導要領では、評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３つとなった。

学習指導要領との対応は以下のとおりである。

・「知識・技能」：学習指導要領の〔知識及び技能〕について指導したことを評価する。

・「思考・判断・表現」：学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕について指導したことを評価する。

・「主体的に学習に取り組む態度」：学習指導要領に直接該当する項目はないが、次の２つの側面を評価することが求められている。

①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面。

②①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

４　「年間指導計画例」の見方

本資料の各項目の概要は、以下のとおりです。

《薄いグレーの見出し》

・学期と各編の単元番号と名称、配当月を示した。

《領域・教材名・ページ数・配当時数》

・領域（読む）、教材名、ページ数、配当時数を示した。

《学習指導要領との対応》

・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示した。

記号の意味

［知技］‥‥「知識及び技能」の指導事項

［思判表］‥「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

㊟‥‥‥‥‥‥「思考力、判断力、表現力等」の言語活動例

《学習目標》

・附録「この教科書で学ぶこと」に掲載の学習目標を示した。

《学習活動例》

・配当時数の中で考えられる学習活動の例を示した。

記号の説明

＊‥‥‥‥‥‥ 指導上の留意点や別案

《評価規準例》

・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点による評価規準例を示した。

・「知識・技能」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔知識及び技能〕の指導事項の文言をそのまま用いて、文末を「～している。」とした。

・「思考・判断・表現」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の文言をそのまま用いて、冒頭を「（領域名）において、」として領域を明示し、更に文末を「～している。」とした。

・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は、扱っている全ての指導事項について設定した。

・「主体的に学習に取り組む態度」は、次の４つの内容を全て含め、各教材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫しながら設定している。また、文末は「～しようとしている。」とした。

①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉

②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉

③他の２観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）

④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

記号の意味

［知技］‥‥「知識・技能」の評価規準例

［思判表］‥「思考・判断・表現」の評価規準例

［主］‥‥‥「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

◆年間指導計画例

Ⅰ部　２年次２単位配当

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領との対応	学習目標	学習活動例 （＊は指導上の留意点など）	評価規準例
■１学期				
古文編１　説話１（４月）				
読む 宇治拾遺物語 Ｐ８ １時間 ■古文の窓１ 小野篁の謎	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、オ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・展開のおもしろさを味わいながら、説話を正確に読み取る。	□説話文学の特徴や文学史について、「言語文化」の学習を踏まえ、確認する。 □資料集などで出典について調べる。 **【小野篁、広才のこと】** １帝の篁への疑いの原因と、その疑いを晴らしたものが、ともに篁の学才にあることを理解する。（手引き１） ２言葉遊びのおもしろさがどこにあるかを読み取る。（手引き２） ３「帝ほほ笑ませ給ひて、事なくてやみにけり。」となった理由を考える。（手引き３） ４係助詞や敬語の基本的な用法を確認する。（語句と表現１・２） □帝と篁のやりとりのおもしろさをまとめる。 □篁をめぐる和歌・説話を知る。（古文の窓１）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。

				［主］進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうとしている。
読む 古今著聞集 P10 1時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、オ	・和歌を含んだ説話を、構成を的確に捉えながら読み取る。	□資料集などで出典について調べる。 □勅撰和歌集の各季節で詠まれている景物を確認する。 **【能は歌詠み】** 1新参の侍が「能は歌詠み」と書いた気持ち、また、侍の言動に対する女房や大臣の対応と心情を考える。（手引き１・２） 2説話の中で紹介された二首の共通点を読み取る。（手引き３） 3助動詞「なり」の用法を整理する。（語句と表現１） □大臣と女房の侍に対する対応の仕方は、それぞれどのようなことを読み手に考えさせるか、まとめる。 □和歌を理解するプロセスについて考える。（和歌の心―解釈のプロセス）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで和歌を含んだ説話の構成を的確に捉え、学習課題に沿って、二つの和歌の共通点や、和歌をめぐる登場人物の対応の仕方について考えようとしている。
読む ●和歌の心―解釈のプ	［知技］⑴イ、ウ、エ／⑵イ	・和歌を正確に解釈する筋道を会	□『古今著聞集』「能は歌詠み」の内容を振り返	［知技］ ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。

ロセス P12 1時間	［思判表］読むこと⑴イ、ウ、ク	得し、和歌についての理解を深める。	る。 □これまで学んで来た和歌を振り返る。 1「解釈の原則」を理解し、具体的な和歌によって実践する。 2「音声としての和歌」について、具体的な和歌によって理解する。 □歌集のみならず、物語や日記など、今後の教材の中で和歌が出て来た際に、「解釈の原則」を活用するように促す。	・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に和歌を正確に解釈する筋道を会得し、和歌についての理解を深めようとしている。
読む 十訓抄 P14 1時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、オ	・中国の話が引用された説話を、構成の特色に注意しながら読み取る。	□資料集などで出典について調べる。 **【成方といふ笛吹き】** 1段落ごとの内容を整理し、現代語訳する。（語句と表現１・２） 2俊綱が笛を手に入れるために弄した策と、俊綱に笛を奪われないように成方が考えた策についてまとめる。（手引き１） 3趙の文王の挿話との共通性について考える。（手引き２）（語句と表現３） □本説話を読んで印象に残った点について感想を書く。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。

			□「昔、趙の文王…」の段落にある話からできた故事成語について調べる。（語句と表現３）	［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで俊綱および成方の話と、趙の文王のエピソードとの共通性について考え、学習課題に沿って、説話の構成や内容について考えをまとめようとしている。
漢文編１　小話（５月）				
読む 小話―六編〔言語〕 Ｐ８ ４時間	［知技］⑴ア、ウ／⑵イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、キ ㊟読むこと⑵ア	・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。	□『言語文化』で学習した「故事成語」や「寓話」について再確認する。 **【先従隗始】** １本文を正しく音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３郭隗の発言の中の「千里馬」と「死馬」が、それぞれ何をたとえているかを読み取る。（手引き２） ４郭隗の弁舌の優れている点について考える。（手引き３） ５「先従隗始（先ず隗より始めよ）」の原義と故	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特

			事成語としての転義を調べる。（語句と表現１） **【不死之薬】** １本文を正しく音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３各段落の内容を理解し、「中射之士（警護の者）」の意図を読み取る。（手引き２・３）（語句と表現１） **【完璧而帰】** １本文を正しく音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３藺相如の発言の内容を読み取り、各段落のあらすじを押さえた上で、藺相如の人柄について話し合う。（手引き２・３） ４「完璧」の原義と故事成語としての転義を調べる。（語句と表現１） **【漱石枕流】** １本文を正しく音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３孫子荊の返答のおもしろさを読み取る。（手引	色について評価している。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ［主］進んで漢文の読み方を確認し、学習課題に沿って、故事成語の果たす役割について考えようとしている。

			き２・３） ４故事成語「漱石枕流」の意味を調べる。（語句と表現１） **【創業守成】** １本文を正しく音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３登場人物の発言及び考えを整理し、話の展開をまとめる。（手引き２・３）（語句と表現１） ４対句的表現の特徴やその効果、また、指示語の内容について確認する。（語句と表現１） ５「創業」と「守成」のどちらが難しいかを考え、話し合う。（言語活動１） **【野中兼山】** １本文を正しく音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３各段落の内容を理解し、兼山の言動とそれに対する「衆」の反応を、順を追ってまとめる。（手引き２） ４兼山の優れている点を話し合う。（手引き３） ５「故人」「人間」「迷惑」の三つの熟語について、現在の意味と漢文での意味を調べる。（語句と表現１）	

			□自分の知っている故事成語について、その元となった話や逸話がどのようなものであったか調べ、紹介し合う。	
古文編２　歌物語（５月）				
読む 伊勢物語 P18 ２時間 ■古文の窓２ 垣間見	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	□歌物語の特徴および『伊勢物語』について、既習の事柄を整理する。 **【初冠】** １本文を現代語訳し、内容を読み取る。（手引き１） ２「春日野の…」の歌と「陸奥の…」の歌を比較し、前者の表現の工夫をまとめる。（手引き２） ３最終部の評語から、この章段の主題を考える。（手引き３） ４垣間見について知識を得る。（古文の窓２） **【月やあらぬ】** １本文を読み、あらすじを理解する。 ２第一段落を読解し、主人公の心情を理解する。（手引き１） ３第二段落を読解し、和歌の内容について考える。（手引き２） **【狩りの使ひ】** １全体を読み、話の流れを把握する。 ２第一～三段落を読解し、状況を理解する。（手引き１）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。

			3第四段落～終わりまでを読解し、状況を把握するとともに、登場人物の心情を考える。（手引き２・３） **【小野の雪】** 1全文を読み、おおよその内容を把握する。 2前半部を読み、「馬頭なる翁」と親王との親交について考える。（手引き１） 3後半部を読解し、状況の変化と、「翁」の心情を読み取る。（手引き１・２） 4前半部と後半部を比較し、登場人物の心情について考察する。（手引き１） **【つひにゆく道】** 1「つひにゆく…」の歌に込められた心情について理解する。（手引き１） 2『伊勢物語』の全体の構成について考える。 □『伊勢物語』を例に、歌物語の特徴をまとめ、理解する。（つひにゆく道）（手引き２）	・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]進んで文語の決まりと歌物語の特徴について正確に理解し、学習課題に沿って作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。
読む 大和物語 P26 1時間 ■古文の窓3 『更級日記』の題名	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表]読むこと⑴ア、イ、ウ、カ [知技]⑴イ／⑵ア [思判表]読む	・歌物語に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、考えを深める。	□作品についての解説を聞き、概略を理解する。 □姨捨伝説を知り、興味を持つ。 □他の文学作品への影響について知識を得る。 **【姨捨】** 1話の概略を理解する。 2「をば」を山に捨てるまでの男の気持ちがどのように変化しているかをまとめる。（手引き	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の

	こと⑴エ		1） 3男が「をば」を迎えに行ったきっかけを読み取る。（手引き２） 4この話が『更級日記』の題名の由来と考えられていることを知る。（古文の窓３）	文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで歌物語の特徴や古典における和歌の効用について理解し、学習課題に沿って自らの考えを深めようとしている。
読む 〔言語〕姨捨伝説を読み比べる P29 1時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、エ ［思判表］読むこと⑴エ、カ、キ、ク ㊟読むこと⑵イ	・時代の異なる複数の作品を読み比べ、それぞれの特徴について理解を深める。	1『大和物語』「姨捨」と『俊頼髄脳』を読み比べる。（課題１） 2姨捨伝説を取り入れた昔話や近代文学について調べ、発表する。（課題２） □『伊勢物語』と比較し、歌物語としての『大和物語』の特質を理解する。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めてい

				る。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで時代の異なる複数の作品の特徴について整理・理解し、学習課題に沿って姨捨伝説が広まった理由について自らの考えを深めようとしている。
漢文編２　詩１（５～６月）				
読む 近体詩―八首 P20 ２時間	［知技］⑴ア、イ、エ／⑵ア、イ、エ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、カ	・唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。	□『言語文化』で学習した「漢詩のきまり」をコピーして配布したり、便覧などを利用したりして、漢詩のきまりや特色を思い出す。 **【宿建徳江】【登鸛鵲楼】** １それぞれの作者について理解する。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。

			2詩を声に出して読む。（手引き１） 3それぞれの詩の内容を捉える。 4漢詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。（手引き１）（語句と表現１） 5正確な現代語訳をする。 6繰り返し音読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。（手引き１） 7「参考」をもとに訳詩を試みる。（手引き３） **【江雪】【勧酒】** 1それぞれの作者について理解する。 2詩を声に出して読む。（手引き１） 3それぞれの詩の内容を捉える。（手引き２） 4漢詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。（手引き１） 5正確な現代語訳をする。（手引き２） 6繰り返し音読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。（手引き１） 7「参考」をもとに訳詩を試みる。（手引き３） **【磧中作】【江南春】【杜少府之任蜀州】【黄鶴楼】** 1それぞれの作者について理解する。 2詩を声に出して読む。（手引き１） 3それぞれの詩の内容を捉える。 4漢詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。（手引き１）（語句と表現１） 5正確な現代語訳をする。（手引き２）	・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。

			6繰り返し音読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。（手引き1） 7「参考」をもとに訳詩を試みる。（手引き3） □近体詩八首と訳詩の中で印象に残った詩を挙げ、どこが印象的であるかを話し合う。	
読む 日本の漢詩―二首 P27 1時間	[知技]⑴ア、イ、エ／⑵ア、イ、エ [思判表]読むこと⑴ア、イ、エ、カ	・日本人が作った漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。	□漢詩の規則と特徴について板書したものをノートにまとめる。 □前近代から連綿として受け継がれ、近代に至るまで、日本の知識人が自分の心情を吐露する詩形として漢詩があったことを理解する。 □近世、近代においても漢詩が文壇の一角を占めていたことを理解する。 **【聞旅雁】【送夏目漱石之伊予】** 1それぞれの詩形と押韻を確認する。（手引き1） 2それぞれの詩を訓点に従って正確に音読し、書き下す。 3詩題と展開に注意して現代語訳し、詠まれている状況を考える。 4詩が詠まれた背景を踏まえて、それぞれどのような心情が詠まれているかを考える。（手引き2） 5印象に残った表現や句について話し合う。（手引き3） 6理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱す	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの
読む 〔言語〕漢詩の作り方を知る P29 1時間	[知技]⑴イ、エ／⑵イ、エ [思判表]読むこと⑴キ、ク ㊟読むこと⑵ウ	・漢詩を復元する活動を通して、漢詩を作るうえでのきまりを確認する。		
■漢文の窓1 明治の文豪と漢詩	[知技]⑵ア、エ [思判表]読むこと⑴ウ、エ、カ			

			る。 □「近体詩―八首」で学習した詩と比較し、中国の漢詩との趣の違いを理解する。 □「言語活動　漢詩の作り方を知る」（教科書二九ページ）に取り組み、課題を通じて漢詩の構造と作り方を知る。	関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで日本人が作ったさまざまな漢詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。
古文編３　随筆１（６月）				
読む 枕草子〔言語〕 P32 ３時間 ■古文の窓４ 草の庵を誰か訪ねむ ■古文の窓５ 紫式部の初出仕	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、カ ㊟読むこと⑵ア ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読む	・随筆の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。	□この作品の内容と作者について、今までの学習で得ていた知識とともに、簡単に整理し、理解する。 **【九月ばかり】** １作者の自然を見る視線の鋭さが、どの描写に見られるかを読み取る。（手引き１） ２「をかし」の語に込められている作者の心情を読み取る。（手引き２） **【すさまじきもの】** １第一段落に記されている事柄について、作者が「すさまじ」と感じている理由を把握する。 ２第二段落を読み、験者の行動と周囲の人々の様子を読み取る。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ［思判表］

■古文の窓6 平安時代の後宮―定子をめぐる人々	こと⑴エ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ		3第三段落の内容と事柄を、時間の経過に従って読み取る。（手引き１） 4作者は物事のどのような点について「すさまじ」といっているのかをまとめる。（手引き２） 5現代における「すさまじきもの」にはどのようなものがあるか考える。（言語活動１） **【中納言参り給ひて】** 1会話部分が誰の言葉であるかを確認する。 2「さては…くらげのななり。」について、その意味内容を読み取る。（手引き１） 3隆家と作者の会話から、二人の人物関係について理解する。 4最後の一文に表れている作者の心情を読み取る。（手引き２） **【雪のいと高う降りたるを】** 1場面を読み取り、発言の主体と動作とを把握する。 2中宮の「笑はせ給ふ。」について、笑った理由を考える。（手引き１） 3女房たちは作者をどのように評価しているかを読み取る。（手引き２） **【二月つごもりごろに】** 1作者は公任をどのような人物として理解していたかを読み取る。 2本文に沿って、作者の心情の変化を読み取り、整理する。（手引き１）	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］・進んで作者の観察眼や「をかし」という語に代表される価値観について理解し、作者の価値観が現代でも当てはまる例について考察し、学習課題に沿って平安時代の後宮生活について自らの考えを深めようとしている。 ・作者と紫式部の初出仕の頃の思いに、自分の高校入学時などの思いを重ねて、深く理解しようとしている。

			3 俊賢の言葉がどのような意味を持つのかを理解する。（手引き２） 4 第二段落に登場する人物の言動を理解する意味から、敬語の用法を整理する。（語句と表現１） 5 作者の漢詩文に対する知識や、当意即妙の才を理解する。（古文の窓４） **【宮に初めて参りたるころ】** 1 第一段落で、作者の初出仕の頃の初々しい様子や心情が記されている箇所を指摘する。（手引き１） 2 第二段落で、定子の作者に対する心遣いが記されている箇所を指摘する。（手引き２） 3 作者から見た定子はどのように描かれているか、まとめる。（手引き３） 4 作者と紫式部の、初出仕の頃の思いを比較する。（古文の窓５） □各章段の内容から、平安時代の後宮に見られる生活について考える。（古文の窓６） □各章段の内容上の特徴についてまとめ、『枕草子』の内容上の三つの分類に区分する。	
古文編４　軍記物語（７月）				
読む 平家物語〔言語〕 P44	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ	・朗読などを通して、内容の解釈を深めたり、表	□平安末期の混乱した時代背景についてまとめる。 □「忠度の都落ち」と「壇の浦の合戦」の『平家	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を

2時間 ■古文の窓7 『平家物語』諸本と『建礼門院右京大夫集』が描く乱世	［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ ㊊読むこと⑵エ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	現の特色について理解を深めたりする。	物語』における時代・時間的な位置づけを明らかにする。 **【忠度の都落ち】** 1全体の構成を意識しながら通読して、あらすじをつかむ。 2第一段落の忠度と俊成の対面の場面における、二人の心情を読み取る。（手引き1） 3第二段落における忠度の述懐の内容と心情を読み取る。（手引き2） 4第二段落における、俊成の忠度に対する思いを読み取る。（手引き1） 5後日談である第三段落の内容を読み取る。（手引き3） **【壇の浦の合戦】** 1全体の構成を意識しながら通読して、あらすじをつかむ。 2第一段落と第二段落における、教経の奮戦の様子を読み取る。 3教経がどのような人物として描かれているか考える。（手引き1） 4第三段落の知盛の発言に着目し、知盛がどのような人物として描かれているか、教経と対比しながら考える。（手引き1・2） 5最後の場面の描写からどのような感じを受けるか話し合う。	豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで軍記物語の表現の特徴について整理・理解しつつ特徴を生かすよう工夫して朗読し、学習課題に沿って描かれた人物像を読み取ろうとしている。

読む 〔言語〕「忠度の都落ち」を読み比べる P48 1時間	**［知技］**⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ **［思判表］読むこと**⑴ウ、エ、ク ㊊ **読むこと** ⑵イ	・複数の文章を読み比べ、作品を多面的・多角的な視点から評価する。	1第一段落の「忠度と俊成の関係」の描き方の違いを読み取る。（課題） 2第一段落の「忠度と俊成の別れの場面」の描き方の違いを読み取る。（課題） 3第二、三段落の「『千載和歌集』における忠度の和歌の扱い」の描き方の違いについて読み取る。（課題） 4「延慶本」と「覚一本」の読み比べからわかったことをまとめ意見を出し合う。（課題） □「忠度の都落ち」と「壇の浦の合戦」に描かれた、死に直面する人物が何を考え、何を思っていたのかをまとめる。 □情景や作中人物の心情に注意し、古文のリズムを生かして朗読する。（言語活動1） □『建礼門院右京大夫集』での描かれ方の違いについて考える。（古文の窓7）	**［知技］** ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 **［思判表］** ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 **［主］**進んで複数の作品の共通点や相違点について整理・理解し、学習課題に沿って各作品の表現上のねらいについて意見を述べ合い、自分の考えを深めようとしている。
■2学期				
古文編5　随筆2（9月）				

読む 方丈記 P58 ２時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ、ク	・表現の特色に注意しながら、随筆に表れている作者の考えを的確に捉える。	□この作品の内容と作者について概略を理解する。 **【安元の大火】** １当時の時刻や方角の表し方を確認する。（語句と表現１） ２多彩な表現技法を確認する。 ３焼失範囲を確認する。（手引き１） ４第一段落の記述の構成と内容を読み取る。（手引き２） ５文末に回想・伝聞の表現が使われている理由を考える。（語句と表現２） ６第二段落の作者の主張を読み取る。（手引き３） **【日野山の閑居】** １四つの段落ごとに、記述された内容を簡単に把握する。 ２「方丈の庵」を作るまでの作者の生活と思いについて考える。（手引き１） ３日野山に移住した時の作者の心境と庵の構造の特徴について確かめる。（手引き２・３） ４作者の草庵生活の実態を理解する。（手引き２） ５自然観賞と浄土思想とが一体化した文章を鑑賞する。（語句と表現１）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで文章の特色や作者の考え方について理解し、学習課題に沿って自らの考えを深めようとしている。

			6 第二段落の特徴的な修辞法に着目する。（語句と表現３） □「安元の大火」、「日野山の閑居」から読み取れる、長明の住居観について考える。 □鴨長明の『方丈記』の作者というばかりではない、別の一面について考える。	
読む 徒然草 P63 3 時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ	・随筆に表れている作者の主張を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	□この作品の内容と作者について概略を理解する。 **【悲田院の尭蓮上人は】** 1「吾妻人」の「都の人」批判を確かめる。 2 尭蓮上人の「都の人」と「吾妻人」とに対する評価を整理する。（手引き１） 3 作者の尭蓮上人への評価の変化を理解する。（手引き２） **【世に従はん人は】** 1「機嫌」を用いて語る意図を理解する。（手引き１） 2 四季の移り変わりと、「生、老、病、死の移り来たること」との対応を捉える。（手引き２） 3 作者の主張を論理展開に留意して理解する。（手引き３） **【あだし野の露消ゆる時なく】**	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを

			1 三つの段落それぞれの「世」「人」「老人」について、兼好はどう考えているかを明らかにする。（手引き１） 2 三つの段落それぞれのつながりを考える。 3 兼好は人生をどのように見、どのように生きるのが望ましいと述べているのかを考える。（手引き２） **【花は盛りに】** 1 話題とする物事を、段落ごとに自然と人事に分けて整理する。 2 作者が推賞する花や月の美について理解するとともに、恋のあり方についても読み取る。（手引き１・２） 3 構成に注意して、作者の述べるものの見方や感じ方について理解する。（手引き３） □隠者文学としての『徒然草』の内容と文学史的位置について理解する。	広げたり深めたりしている。 [主] 進んで随筆の文章に表れた作者の主張について理解し、学習課題に沿って自らのものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。
読む 玉勝間〔言語〕 P71 2 時間	[知技] ⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、カ、ク ㊟ 読むこと	・他の作品との関係を踏まえながら多面的・多角的に随筆を読み、考えを広げる。	□本居宣長について、時代と業績のおおよそについて知る。 **【兼好法師が詞のあげつらひ】** 1 兼好法師の「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは。」という言葉に対す	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現

■古文の窓８ 真淵と宣長	⑵イ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ		る作者の批判を読み取る。（手引き１①） ２兼好法師の「恋の歌」における、作者の批判を読み取る。 ３兼好法師の「人は四十に足らで死なんこそ、めやすかるべけれ。」という言葉に対する作者の批判を読み取る。（手引き１②） ４兼好法師を批判する作者の基本的な考え方を読み取る。（手引き２・３） **【師の説になづまざること】** １第１段落における作者の師の説に対する批判の多い理由を読み取る。 ２第２段落における師の説を固守すべきではないと作者の言う理由を読み取る。（手引き１） ３第３段落における作者の学問の道・古代の精神に対する考えを読み取る。（手引き２）（古文の窓８） □兼好法師の立場から作者に反論する。（言語活動１）	の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで他の作品との関連について理解しながら、学習課題に沿って随筆における作者の考えを捉え、自らの考えを広げようとしている。
漢文編３　史記１（９月）				
読む 項羽〔言語〕 P32 ３時間	［知技］⑴ア、ウ／⑵イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、	・『史記』を読み、項羽の行動や心情について考えてまとめ、	□「本紀」「紀伝体」等の形式を確認する。 **【鴻門之会】** １第一段落と第二段落を音読し、書き下し文で留意する箇所を確認する。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を

■漢文の窓２ 捲土重来	エ、カ ㊢読むこと ⑵ア ［知技］⑵エ ［思判表］読むこと⑴ウ、ク	調べて発表する。	２第一段落と第二段落を現代語訳し、登場人物を項王側と沛公側とに分けて整理する。（手引き１） ３第三段落の第一節と第二節（三五・11まで）を音読し、書き下し文で留意する箇所を確認する。 ４第三段落の第一節と第二節を現代語訳し、新たな登場人物を整理する。（手引き１） ５第三段落の第三節と第四段落を音読し、書き下し文で留意する箇所を確認する。 ６第三段落の第三節と第四段落を現代語訳し、登場人物のはたらき、樊噲の主張をまとめる。（手引き２・３） ７沛公が無事に脱出できた理由について話し合う。（手引き４） ８各登場人物の性格や人柄について、本文を根拠にして整理する。（語句と表現１） **【四面楚歌】** １本文の前半（三八・10「騎之」まで）を音読する。 ２句法に注意して本文前半を書き下し、現代語訳する。（手引き１） ３本文の後半（三八・10「於是」以降）を	深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで『史記』を読んで項羽の行動や心情について理解し、学習課題に沿って、人間のあり方について関心を深めたり、調べて発表したりしようとしている。

			音読する。 4句法に注意して本文後半を書き下し、現代語訳する。（手引き２） 5便覧・辞書等を利用して、「すなはチ」と訓読する文字とその意味を理解する。（語句と表現１） 6「四面楚歌」という故事成語の意味を調べ、「四面楚歌」という言葉を使って短文を作る。（語句と表現２） **【項王自刎】** 1第一段落を音読する。 2句法に注意して第一段落を書き下し、現代語訳する。（手引き１・２） 3第二段落を音読する。 4句法に注意して第二段落を書き下し、現代語訳する。（手引き１） 5辞書・文法書等を利用して、「安」「悪」「焉」の読み方と意味を理解する。（語句と表現１） 6三つの教材を通して、項羽の人物像について話し合う。（手引き３） 7「項王笑曰」の笑いとはどのような笑いか考え、話し合う。（言語活動１） □項羽の人物像を整理する。 □蘇軾の文章や、杜牧、王安石の詩を参考にして、項羽の行動に対する自分なり	

			の評価を考える。（漢文の窓２）	
漢文編３　史記１（10 月）				
読む 劉邦 P44 １時間	[知技]⑴ア、ウ／⑵イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、カ	・『史記』を読み、劉邦の行動や心情について考えてまとめる。	□項羽と劉邦の、この時点での状況を理解する。 **【吾所以有天下者何】** １本文を正しく音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。 ３劉邦が天下を取った理由を整理する。（手引き１） ４劉邦の自分の部下への評価を考える。 □劉邦の人物像を整理する。 □項羽と劉邦を比較し、その違いを整理してまとめる。	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 進んで『史記』を読んで劉邦の行動や心情について理解し、学習課題に沿って、人間のあり方について関心を深めようとしている。
読む 項羽の評価を読み比べる P46 １時間	[知技] ⑴イ／⑵イ、エ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、ク	・人物評価を読み比べ、自分なりの評価をまとめ、登場人物に対する理解を深める。	□「劉邦」「吾所以有天下者何」を振り返り、内容を再確認する。 １「劉邦」「吾所以有天下者何」の中から、劉邦とその臣下の項羽に対する評価を探してまとめる。（問１） ２「項羽本紀」を正しく音読する。	[知技] ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確

			３脚注・辞書等を参照し、句法や重要語に着目しながら正しく現代語訳し、内容を理解する。 ４司馬遷が最も伝えたかったことを読み取り、司馬遷による項羽の人物評価についてまとめる。（問２） ５項羽の人物評価について、自分の考えをまとめる。（問３） □項羽の評価について、司馬遷がどのように表現しているか把握する。 □個人、またはグループで、項羽について述べたり評価したりしている資料を探し、項羽に対する理解を深める。 □評価の項目を考え、表などにまとめて整理する。	に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 **[主]** 進んで項羽についての人物評価を読み比べ、学習課題に沿って、項羽に対する自分なりの評価をまとめ、登場人物への理解を深めようとしている。
読む 〔言語〕項羽と劉邦を比較する P48 １時間	**[知技]** ⑵エ **[思判表] 読むこと** ⑴キ、ク **㊟ 読むこと** ⑵イ	・項羽と劉邦の詩を読み比べ、その人生の共通点や相違点について調べ、発表する。	□劉邦が「大風歌」を詠んだ際にどのような状況に置かれていたかを確認する。 □「大風歌」の内容を確認し、「大風歌」に込められた劉邦の思いを考える。 □「垓下歌」の詠まれた状況と内容を確認し、「垓下歌」に込められた項羽の思いを考える。 □劉邦・項羽がそれぞれの歌に込めた思いについて、自分の考えを発表し合う。（課題）	**[知技]** ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 **[思判表]** ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 **[主]** 進んで項羽と劉邦の詩を読み比べ、学習課題に沿って、両者の人生の共通点や相違点について調べ、発表しようとしている。

			□項羽と劉邦の事績及び人物像について、整理する。	
古文編６　日記１（10 月）				
読む 更級日記 P78 ４時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、オ	・他の作品との関係も踏まえながら日記を読み、作者の境遇を的確に捉える。	□日記文学の流れと概要について学び、理解する。 □『更級日記』とその作者について理解する。 □当時の東国から都までの旅について、そのおおよそを確認する。 **【門出】** １本文を読み、作者の育った東国の生活について理解する。（手引き１） ２作者の物語への憧れについて整理する。（手引き２） ３門出にあたっての作者の心情を読み取る。（手引き３） ４作品全体の冒頭部分としての意味を考え、この日記の構造と主題を理解する。 **【物語】** １本文を読み、「源氏の物語」を手に入れた経緯と、それまでの作者の気持ちをまとめる。（手引き１） ２「源氏の物語」を読む感動はどのように描かれているか、まとめる。（手引き２） ３ここに語られる「夢」とはどういうもの	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで文学史における女流日記文学の位置づけについて理解し、学習課題に沿って作者の置かれた境遇や物語に向けられた心情について読み取ろうとしている。

			か理解し、それに対する作者の態度を読み取る。 4「まづいとはかなく、あさまし。」という表現に注目して、少女時代の物語耽溺に対する晩年の思いを知る。(手引き3) □二教材から分かる、日記文学の特徴を挙げる。	
読む 蜻蛉日記 P82 2時間 ■古文の窓9 道綱の活躍を喜ぶ母の心は？ ■古文の窓10 日記作者と物語―道綱母・孝標女をめぐって	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、カ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・日記に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を、自分と関係づけながら読み取る。	□この作品の概要や作者について、おおよそを理解する。 □「なげきつつ…」の歌について知るところを発表する。 **【なげきつつひとり寝る夜】** 1本文を読み、作者と兼家との間に何が起こったのか把握する。(手引き1) 2当時の結婚形態を学び、女性としての作者の心情を理解する。 3和歌の修辞とそこに表れる詠み手の心情を理解する。(手引き2) 4「菊」に込められた心情を理解する。(手引き3) 5作者の心情について、感想を述べる。(手引き4) **【あまぐもにそる鷹】**	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。

			1話の展開に即して二人の心情を読み取る。（手引き１） 2道綱が鷹を放った理由を考える。（手引き２） 3「あらそへば…」の歌に用いられた掛詞と歌に表れる作者の心情を理解する。（手引き３） □作者の道綱に対する思いについて、他の記事も参考にしながら理解を深める。（古文の窓９） □作品の概要とその自照性について理解を深める。（古文の窓 10）	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 進んで日記文学に表れた作者のものの見方、感じ方、考え方について理解し、学習課題に沿って自分と比較しながら考察を深めようとしている。
漢文編４　思想１（11 月）				
読む 儒家の思想〔言語〕 P50 ３時間	[知技]⑴ア、ウ／⑵イ、ウ、エ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、キ ㊟ 読むこと⑵イ	・三人の儒家の文章を読み、各テーマに対する共通点や相違点を文章にまとめる。	□諸子百家や当時の時代状況について、教科書巻末の「中国文学史年表」や便覧等で確認し、ノートにまとめる。 □「儒家」をはじめ、諸子百家が、混乱の時代を収束させようとしていたことを補説する。 **【論語―二章】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３「仁」や「君子」の意味、学問の上で、孔子が何に重点を置いていたのかを読	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。

			み取る。（手引き１・２） ４論語における君子に見られる三つの側面について調べる。（語句と表現１） **【仁人心也、義人路也】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３孟子の「学問之道」が指しているものを読み取る。（手引き３） **【君子有三楽】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３孟子がいう「君子」の理想である「三楽」が指しているものを読み取る。（手引き４） **【論語―三章】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３顔回・子路に対する評価を読み取る。（手引き１・２・３） ４現在と異なる意味で用いられる語句について調べる。（語句と表現１） **【性相近也】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３孔子における「性」「習」を整理し、どちらを重視していたのかを考える。（手	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主] 文章内容からそれぞれの考え方を進んで読み取り、その考え方について理解するとともに、学習課題に沿って各テーマに対する自分自身の考えをまとめようとしている。

			引き１） **【性之善也、猶水之就下】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３告子・孟子の「性」についての考え方を理解する。（手引き２） **【人之性悪】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。（語句と表現１） ３性悪説の特徴をまとめる。（手引き３） ４孟子と荀子の相違点をまとめ、自分なりの「性」をとらえ、論じる。（言語活動１） ５「論語」、「孟子」、「荀子」で用いられる表現に着目してまとめる。（語句と表現２） □思想家それぞれの重点がどこに置かれているのか、話し合う。	
古文編７　作り物語１（11 月）				
読む 源氏物語（一）〔言語〕 P88 ３時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、エ、カ、ク	・他の作品や絵との関係も踏まえながら、作り物語の内容を的確に読み取る。	□「出典・作者」の項を参考にして、作品と作者について必要な知識を得る。 **【光源氏の誕生】** １全体を通読し、現代語訳をする。（語句	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。

■古文の窓 11 紫のゆかり	㊊読むこと ⑵ア ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ		と表現２・３） ２敬語について理解する。（語句と表現１） ３物語世界がどのような状況であるかを理解する。（手引き１・２） ４物語の書きだしについて考える。（手引き３） **【若紫】** １全体を通読し、現代語訳をする。（語句と表現２・３） ２登場人物について整理し、理解する。（語句と表現１） ３登場人物の描写の特徴を理解する。（手引き１） ４登場人物の心情を読み取る。（手引き２・３） ５絵画に描かれた場面と本文とを比べる。（言語活動１） □「光源氏の誕生」「若紫」の内容をまとめる。 □今後の展開について、知識を得る。（古文の窓 11）	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで他の作品で言及されたり絵に描かれたりした『源氏物語』と本文とを比較し、学習課題に沿って登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとしている。
古文編８　歴史物語１（11 月）				

読む 大鏡（一） P98 3時間 ■古文の窓12 語り伝えられる陰陽師・安倍晴明	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、エ、カ ㊊読むこと⑵イ ［知技］⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に捉える。	□歴史物語としての『大鏡』の特色を簡略に理解する。 **【雲林院の菩提講】** 1登場人物を確認する。 2二人の老人の姓名と、どのような人物かを読み取る。（手引き1・3）（語句と表現1） 3古老たちが見聞した昔話を語るという叙述方法は、どのような効果をもたらすかを考える。（手引き2・3） 4紛らわしい語の識別方法を確認する。（語句と表現2） **【道真の左遷】** 1道真が左遷させられた理由を理解する。（手引き1） 2道真の左遷に関して、帝の処置の厳しさと筑紫に着くまでの道真の心情を、詩歌を通して順次読み取る。（手引き2・3） 3筑紫で謹慎している時の状況を理解する。（手引き2） 4二重敬語を理解する。（語句と表現2） 5道真と白居易の漢詩を読み比べる。（言語活動1） **【鷲宿梅】**	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで作品の叙述の特徴や語り手の立場について整理・理解し、学習課題に沿って内容について意見を述べ合い、自分の考えを深めようとしている。

			1紀貫之の娘や村上天皇の心情を読み取り、繁樹の言いたいことをまとめ、表面上には書かれていない繁樹の心情を推測する。（手引き１・２・３） 2敬語の種類と敬意の方向を確認する。（語句と表現１） **【花山天皇の出家】** 1登場人物の行動を確認する。（手引き１） 2御所を抜け出す時の状況を読み取る。（手引き１・２） 3花山寺に着いてからの展開を考える。（手引き３） 4敬語の種類と敬意の方向を確認する。（語句と表現１） 5安倍晴明について知り、教材への関心を高める。（古文の窓 12）	
読む 〔言語〕道真伝説を調べる P112 1時間	**[知技]** ⑵ア **[思判表] 読むこと** ⑴キ、ク **㊟読むこと** ⑵オ	・関心を持った事柄について調べ、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	1さまざまな道真伝説の中から、興味を引かれたこと、調べてみたい事柄を選ぶ。（課題） 2自分の選んだテーマについて、文献、フィールドワーク、インターネット等で調べ、まとめる。（課題）	**[知技]** ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 **[思判表]** ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 **[主]** 進んでテーマについて調べたい事柄を自覚的に設定し、学習課題に沿ってさまざまな資料を調べてまとめることを通してものの見方、感

			□本文に登場するさまざまな人物に対する語り手の感想から、『大鏡』の描く歴史物語の主題を考える。 □『栄花物語』との比較を便覧などで調べ、まとめる。	じ方、考え方を深めようとしている。
漢文編５　小説１（12 月）				
読む 小説―三編 P64 ２時間	[知技]⑴ア、ウ／⑵イ、ウ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、キ	・小説の展開に即して、内容を正確に読み取りながら、発想や表現の特色を理解する。	□教科書の扉〔六三〕や便覧などを利用し、漢文における「小説」について、ノートにまとめる。 □教科書の注釈や便覧などを利用し、『世説新語』と『太平広記』について調べる。 **【小時了了】** １本文を音読する。 ２脚注・辞書等を参照して、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３孔文挙が李元礼に面会できた理由と、陳韙が「大ィニ　踧　踖」した理由を考える。（手引き２・３） ４便覧・辞書等を利用して、「忘年の交わり」「登竜門」の意味を確認する。（語句と表現１） **【長安何如日遠】** １本文を音読する。 ２脚注・辞書等を参照して、語句・句法の	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主] 漢文における「小説」について進んで調べ、学習課題に沿って調べた内容を工夫してまとめたり発表したりしようとしている。

			意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３元帝と明帝の会話を整理し、明帝の発言の変化について理解する。（手引き２） ４便覧・辞書等を利用して、「なんぢ」と訓読する漢字を確認する。（語句と表現１） **【夜行逢鬼】** １本文を音読する。 ２脚注・辞書等を参照して、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３宋定伯と鬼の発言や行動を整理し、話の展開をまとめる。（手引き２） ４便覧・辞書等を利用して、「是」を用いた複合的表現の読みと意味を確認する。（語句と表現１） □『世説新語』の二編と『太平広記』の一編を比較することにより、漢文における「小説」の時代による変遷を考える。	
漢文編６　詩２（12 月）				
読む 古詩―五首 P72	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵イ	・古体詩の特色を理解し、詩にうたわれた情景	□近体詩の特色を思い出してみる。 □近体詩と古体詩の詩形の違いについて学習し、「桃夭」を例として確かめる。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。

2時間	［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、カ	や作者の心情を読み味わう。	（語句と表現１） **【桃夭】【碩鼠】【行行重行行】** １詩を正確に読んで書き下し、繰り返し朗読する。（手引き１） ２詩形・押韻・対句を確認する。（語句と表現１） ３展開に注意して現代語訳し、「桃夭」「碩鼠」「行行重行行」にうたわれた主題や作者の心情を考える。（手引き１） ４理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。 ５詩を選んで訳詩を試みる。（手引き３） **【野田黄雀行】【飲酒】** １詩を正確に読んで書き下し、繰り返し朗読する。（手引き１） ２詩形・押韻・対句を確認する。（語句と表現１） ３展開に注意して現代語訳し、「野田黄雀行」「飲酒」にうたわれた主題や作者の心情を考える。（手引き１・２） ４理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。 ５詩を選んで訳詩を試みる。（手引き３） □古詩五首の中で印象に残ったものを取り上げて、鑑賞文を書く。	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで古詩五首の中で印象に残ったものを取り上げ、学習課題に沿って鑑賞文を書こうとしている。

■３学期				
古文編９　詩歌（１月）				
読む 八代集の世界〔言語〕 P116 ２時間	**［知技］**⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ **［思判表］読むこと**⑴ア、イ、ウ、オ ㊢**読むこと**⑵ウ	・表現の特色を踏まえながら、和歌の内容を読み取る。	□基本的な和歌の修辞を復習する。 □平安時代から鎌倉時代初期にかけての文学史の概要を復習する。 １『古今和歌集』の三首を読み、表現の特徴を比較する。（手引き１・２） ２『後撰和歌集』の二首を読み、贈答歌のおもしろさを味わう。（手引き１・２・言語活動１） ３『拾遺和歌集』の一首を読み、どのような立場で詠まれた歌かを考える。また、曽禰好忠の和歌史における功績について理解する。（手引き１） ４『後拾遺和歌集』の能因法師・和泉式部の歌を読み、それぞれの詠歌状況と後代への影響を理解する。（手引き１・２） ５『金葉和歌集』の源俊頼の歌を読み「百首歌」と「述懐」について理解し、また律師慶暹と童の歌を読み「連歌」について理解する。（手引き１） ６『詞花和歌集』の一首を読み、叙景歌について理解する。（手引き１・２） ７『千載和歌集』の一首を読み、出家遁世と和歌について考える。（手引き１）	**［知技］** ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 **［思判表］** ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。 **［主］**進んで文語のきまりや和歌の表現技法について理解し、学習課題に沿って和歌の内容を読み取ろうとしている。

			8『新古今和歌集』の三首を読み、それぞれの歌の特徴を捉える。(手引き１・２) □勅撰和歌集は、なぜ長い時代にわたって続いたのか、考えて話し合う。	
読む 歌合〔言語〕 P122 ２時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表]読むこと⑴ア、イ、エ、キ、ク ㊊読むこと⑵ア	・構成に注意しながら歌合を読み、言語文化についての理解を広げる。	□歌合の基本的な方法・用語を理解する。 □現代に続く歌合の伝統について考える。 **【天徳四年内裏歌合】** １『天徳四年内裏歌合』の成立・構成を理解する。 ２二十番の左右の歌を読解し比較する。(手引き１) ３二十番の判詞を読解する。(語句と表現１)(手引き２) **【六百番歌合】** １『六百番歌合』の成立・構成・参加者を理解する。 ２十三番の左右の歌を読解し比較する。 ３十三番の判詞を読解する。(語句と表現１)(手引き１・２) □歌合の魅力について話し合う。 □歌合を実践する。	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。

			□『天徳四年内裏歌合』の忠見と兼盛の歌が併せて収録されている作品を調べる。（言語活動１）	[主] 進んで歌合について理解し、学習課題に沿って文学的行事に表れる言語文化について考えを広げようとしている。
読む 歌論〔言語〕 P125 １時間	[知技] ⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、オ ㊟ 読むこと⑵ア	・論旨を的確に捉えながら歌論を読み、自分の考えを深める。	□本教材が「歌論」という特殊な内容であることを確認する。 **【古今和歌集仮名序】** １第１段落を通読し、構成を理解する。 ２作者の言う和歌の本質とは何であるかを、比喩に着目しながら読み取る。（手引き１） ３作者が和歌をどのようなものとして捉えているかをまとめる。（手引き２） ４第２段落を通読し、六歌仙それぞれがどのように批評されているかを、比喩に着目しながら読み取る。（言語活動１） **【近代秀歌】** １本文を読解し、藤原定家の本歌取りに関する考え方の詳細を理解する。（手引き１・２） ２藤原定家の本歌取りに関する考え方、注意点についてまとめる。（手引き３） □「心」と「言葉」に着目して、どのような和歌が理想的であるのかを考える。	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [主] 進んで歌論の論旨を把握し、学習課題に沿って和歌と歌論について自らの考えを深めようとしている。
読む	[知技] ⑴ア、	・和歌との関係も	□歌謡について、その性質、ジャンル、代	[知技]

歌謡 P130 1時間 ■古文の窓13 沖縄の歌謡―オモロ・琉歌	イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、ク ［知技］⑴イ、エ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	踏まえながら歌謡を読み、それぞれの特徴についての理解を深める。	表的な作品などについて簡単に知る。 **【梁塵秘抄】** 1繰り返し音読して、それぞれの歌の調子やリズムを捉える。 2それぞれの歌について、どのような心情が込められているかを読み取る。（手引き1） 3和歌と今様の違いについて考える。（手引き2） **【閑吟集】** 1繰り返し音読して、それぞれの歌の調子やリズムを捉える。 2それぞれの歌に用いられている修辞を確認する。（手引き1） 3それぞれの歌について、どのような心情が詠まれているかを読み取る。（手引き2） □気に入った歌の感想を発表したり、鑑賞文にまとめたりする。 □今様・小歌以外のジャンルについて調べる。（古文の窓13）	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］進んで歌謡のリズムを味わい、学習課題に沿って和歌とは異なる歌謡の特徴について自らの考えを深めようとしている。
漢文編7　思想2（2月）				
読む 道家の思想	［知技］⑴ア、ウ／⑵イ、エ	・二人の道家の文章を読み、人間	□道家や当時の時代状況について、教科書巻末の「中国文学史年表」や便覧等で	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必

P80 3時間 ■漢文の窓３ 儒家と道家	[思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、キ [知技]⑵ウ、エ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、カ	の生き方について考えを深める。	確認し、ノートにまとめる。 □「道家」も儒家と同じく、混乱の時代を収束させようとしていたことを補説する。 **【無用之用】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３「無用之用」の具体例が果たしている「用」を理解する。（手引き１） **【人之生也、柔弱】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３『老子』の人生観を、「堅強」「柔弱」の対比から読み解く。（手引き１） ４逆説的表現を抜き出す。（語句と表現１） **【大道廃、有仁義】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３本文の主張を理解する。 ４儒家と道家の違いについて理解する。 ５逆説的表現を抜き出す。（語句と表現１） **【上善若水】** １本文を声に出して読む。	要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主] 進んで漢文の読み方を確認し、学習課題に沿って、故事成語の果たす役割について考えようとしている。

			２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３水と道との相似点を挙げる。（手引き１） **【小国寡民】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３老子の理想とする「小国寡民」とはどのようなものか理解する。（手引き２） **【曳尾於塗中】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３「曳尾於塗中」に述べられている荘子の生き方を把握する。（手引き２） **【夢為胡蝶】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３荘周が夢の中で感じていたこと、夢から覚めて思ったことを読み取り、問題提起をとらえる。 ４「此之謂物化」の意味をとらえ、荘周がこの話で伝えたかったことを考える。（手引き１） ５「与」の句法について理解する。（語句と表現１） □思想家それぞれの重点がどこに置かれ	

			ているのか、話し合う。 □世の中で活躍するための学問と、無や自由な生涯を全うすることにこそ価値があるとする立場とが、なぜ生まれたのか、話し合う。	
古文編 10　近世小説１（２月）				
読む 世間胸算用 P134 １時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、オ	・作品の背景も踏まえながら、近世小説の内容を的確に読み取る。	□作者と作品について調べ、中世までの文学との性格の違いを理解する。 **【小判は寝姿の夢】** １当時の大晦日の慣習を確認し、夫婦の置かれた状況を理解する。 ２妻が下した決断と登場人物の会話のやりとりから、それぞれの人物の心情を読み取る。（手引き１・２） ３冒頭の段落と、夫の心情の変化を併せて話の全体を鑑賞する。（手引き３） ４本文を音読して、近世の文章の特徴について考える。（語句と表現１） □『世間胸算用』に収められた話の舞台が「大晦日」に設定されていることの効果について考える。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。

				[主]進んで近世文学の特徴について理解し、学習課題に沿って作品に描かれた心情や人間模様を読み取ろうとしている。
古文へのまなざし（２月）				
読む 和歌というメディア P139 １時間	[知技]⑴イ、エ／⑵ア、エ [思判表]読むこと⑴エ、カ、ク	・和歌についての現代の評論を読み、言語文化についての視野を広げる。	□和歌文学の特徴について、これまでの古文学習を踏まえてまとめるとともに、「メディア」という用語について確認する。 １キーワードに留意しながら本文を通読する。 ２第一～三段を読み、筆者が和歌と英語の詩の違いをどのように捉えているか読み取る。（手引き１） ３第四段を読み、「内容志向」と「表現志向」の違いを理解する。（手引き２） ４第五段を読み、日本文化において和歌が果たしてきた役割を考える。(手引き３） □筆者の主張を実例に即してまとめ、広く日本文化のあり方について考える。	[知技] ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]進んで古典についての現代の評論に触れ、学習課題に沿って日本の言語文化についての考えを深めようとしている。
漢文編８　文１（３月）				
読む 文―三編 P88 ３時間	[知技]⑴ア、ウ、エ／⑵イ、エ [思判表]読む	・文章の構成や展開を理解し、さまざまなものの見方、考え方	□『楚辞』の概要と屈原の生きた時代、屈原の略歴について確認する。 □『陶淵明集』の概要と陶潜の生きた時	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を

	こと⑴ア、イ、ウ、オ、キ	に触れる。	代、陶潜の略歴について確認する。 □『古文真宝後集』の概要と李白の生きた時代、李白の略歴について確認する。 **【漁父辞】** 1本文を正しく音読する。 2第一段落について、正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き1） 3漁父と屈原の主張をまとめる。（手引き2・3） 4第二段落について、正確に現代語訳し、内容を理解する。 5漁父の考えをまとめる。（手引き2・3） 6屈原の生き方と漁父の生き方について意見を述べ合う。（手引き4） 7「や」「と」「ともニ」以外の「与」の読みを調べる。（語句と表現1） **【五柳先生伝】** 1本文を正しく音読する。 2脚注・辞書等を参照して、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き1）（語句と表現1） 3登場人物の人柄について整理し、人物像を把握する。（手引き2） 4「五柳先生伝」に見える作者陶潜の人生	深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ［主］三つの文章に表されたそれぞれの人生観について進んで理解を深め、学習課題に沿ってまとめたり発表したりしようとしている。

			観について確認する。（手引き３） **【春夜宴桃李園序】** １本文を正しく音読する。 ２脚注・辞書等を参照して、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３各段落の要点を整理し、話の展開をまとめる。（手引き２） ４文章の表現の上で、工夫された特徴とその効果について確認する。（語句と表現１） ５本文に表された作者の人生観について確認する。（手引き３） □屈原・陶潜・李白、それぞれの人生観についてどう思うか、意見交換をし、自分の人生観とも照らし合わせ、理解を深める。	
古文へのまなざし（３月）				
読む 古典芸能への誘い P144 １時間	［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ、ク	・さまざまな古典芸能に触れることで、古典についての理解を深める。	□古典芸能について知っていることや、見たことのある作品などを発表する。 １教科書の解説や掲載された写真なども参考にしつつ、「能」「狂言」「人形浄瑠璃」「歌舞伎」の概略を理解する。 ２古典芸能の作品を一つ選び、題材やあ	［知技］ ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。

			らすじなどを調べ、まとめる。 3　2をもとに、調べたことを発表し合う。 4　2で扱った作品について、劇場での鑑賞、テレビ放映や、ビデオ・ＤＶＤ・ＣＤなどの映像、音声資料での鑑賞を行う。 □古典芸能の鑑賞を行い、感想を話し合う。 □古典芸能の特徴や魅力を自ら説明する。	・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]進んで古典芸能について理解し、学習課題に沿って古典に対しての自分の考えを深めようとしている。
読む 〔言語〕言葉の変遷を調べる P148 1時間	[知技]⑴ア、エ／⑵ア、イ、ウ [思判表]読むこと⑴キ、ク ㊊読むこと⑵カ	・言葉の変遷について調べ、言葉についての認識を深める。	□古語と現代語の違いについて、これまでの学習で気づいた点を挙げる。 1古語の意味の変化や生き残りの諸相といった観点から、興味を持ったテーマを選び、調べる。（課題） 2選んだ古語について調べたことを手がかりに、国語の特質について考える。（課題） □現代語に古語から引き継いでいる語があることを確認する。また、古語と現代語で意味が変わらない語、古語にはあるが現代語にはない語、現代語にはあるが古	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。

			語にはない語を挙げて、言葉の変遷について考える。	[主]進んで言葉の変遷について疑問を持ち、学習課題に沿ってその疑問について調べ、時代の移り変わりや社会の変化に伴う言葉の変遷や言葉の本質について自らの考えを深め、分かったことや考えたことをまとめようとしている。

Ⅱ部　３年次２単位配当

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領との対応	学習目標	学習活動例 （＊は指導上の留意点など）	評価規準例
■１学期				
古文編１　説話２（４月）				
読む 宇治拾遺物語〔言語〕 P150 １時間 ■古文の窓 14 説話と絵巻	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、エ、ク ㊟読むこと⑵オ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴ク	・絵や歴史と比較しながら説話を読み、言語文化についての考えを深める。	□応天門の変について知っていることを発表する。 □「伴大納言絵巻」の成立や描かれている場面のおおよそを理解する。（古文の窓 14） **【伴大納言、応天門を焼くこと】** １各段落の冒頭表現などを手がかりに場面を整理する。（手引き１） ２第一場面（第１・第２段落）を読み、人物の行動や心情に注目して、人物像を把握する。（手引き２） ３第二場面（第３段落）を読み、「右兵衛の舎人」が目撃した内容を確認し、その後の行動と心情を考察する。 ４第三場面（第４段落）を読み、「伴大納言家の出納」と「右兵衛の舎人」の行動や言葉の意味を理解する。（手引き２） ５第四場面（第５・第６段落）を読み、真相が明らかになる意味を整理するとともに、話末評語の内容を確認する。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げた

			6「伴大納言絵巻」の掲載箇所がどの場面を描いたものか確認し、表現上の特徴やその効果について話し合う。(手引き３）（古文の窓 14) 7 応天門の変の歴史的経緯について調べ、本話の内容と比較して、考えたことを発表する。（言語活動１） □『宇治拾遺物語』の第四話「伴大納言のこと」を読み、本話と合わせて伴大納言の人物像についてまとめる。	り深めたりしている。 [主] 積極的に絵や歴史と比較しながら説話を読み、今までの学習を生かして、言語文化についての理解を深めようとしている。
読む 発心集 P156 1 時間 ■古文の窓 15 仏教説話と世俗説話	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、カ [知技]⑴イ／⑵ア [思判表] 読むこと⑴エ	・説話に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。	□資料集などで出典について調べる。 □鴨長明について知っていることを確認する。 **【蓮花城、入水のこと】** 1 蓮花城の入水の決意から霊となって現れるまで、登蓮はその都度、どのような気持ちを抱いたか、整理する。(手引き１） 2 本説話から、鴨長明は人の心というものをどのように捉えていたか考える。（手引き２） 3 現代にも通じる古語や言い回しについて確かめる。（語句と表現１・２）	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉え

			□本説話のテーマについて話し合う。(古文の窓 15)	て内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に説話に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、今までの学習を生かして、人間、社会、自然などに対する自分の考えを深めようとしている。
漢文編１　史話（４～５月）				
読む 三国志の世界〔言語〕 P98 ３時間 ■漢文の窓４ 三国志	[知技]⑴ア、ウ／⑵イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、カ ㊟ 読むこと⑵キ [知技]⑵ア、エ [思判表] 読むこと⑴エ	・登場人物の行動や心情を読み取るとともに、史話を踏まえた語彙について考察してまとめる。	□『三国志』の人物や筋など、知っていることを発表する。 □『三国志演義』との違いを理解する。(漢文の窓４) **【赤壁之戦】** １第一段落と第二段落を音読し、書き下し文にする。（手引き１） ２第一段落と第二段落を「之」に注意して現代語訳し、孫権が曹操に敵対する決心をするまでの経緯を把握する。(手引き１）（語句と表現１） ３第三段落と第四段落を音読し、書き下し文にする。（手引き１） ４第三段落と第四段落を現代語訳する。（手引き１）	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。

			5赤壁の戦いの経過を整理する。(手引き２) **【蝸股肱之力】** 1本文を音読し、書き下し文にする。(手引き１) 2「つひニ」と訓読する文字と用法を調べる。(語句と表現１) 3脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。(手引き１) 4諸葛亮の人柄についてまとめ、発表する。 **【出師表】** 1本文を音読する。 2本文を句法に注意して書き下し、現代語訳する。(手引き１) 3諸葛亮の主張をまとめ、どのような人物か考える。(手引き２・３) 4故事成語「危急存亡の秋」「三顧の礼」の由来と用法を確認する。(語句と表現１) 5『三国志』がもとになってできた故事成語を調べ、それらの日常生活での使い方を考えて発表する。 □文章から、劉備・諸葛亮・曹操・孫権は、	・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に本文の内容や構成、展開を的確に捉え、今までの学習を生かして、登場人物の行動や心情を読み取り、人物像についてまとめようとしている。

			それぞれどのような人物だと言えるか考える。（言語活動１・２・３）	
読む 日本外史 P106 ２時間	［知技］⑴ア、イ、ウ／⑵イ、ウ、エ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、カ	・登場人物の行動や心情を読み取り、人間の生き方について考える。	□教科書の注釈などを利用し、『日本外史』と著者頼山陽についてノートにまとめる。 □必要事項を板書したものをノートにまとめる。便覧等も積極的に活用する。 **【所争不在米塩】** １訓点や仮名遣いに注意して本文を音読する。 ２脚注・辞書等を参照しながら、句法に注意して、正確に現代語訳する。（手引き１） ３登場人物を整理し、それぞれがどのような行動をとったかまとめる。 ４謙信の戦に対する考え方を理解し、またその器の大きさを考える。（手引き２） ５「敵に塩を送る」という言葉の意味と、どのように使われているかを調べる。（語句と表現１） **【諸将服信玄】** １訓点や仮名遣いに注意して本文を音読する。 ２脚注・辞書等を参照しながら、句法に注	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に本文の内容や構成、展開を的確に捉え、今までの学習を生かして、登場人物の行動や心情を読み取り、人間の生き方について考えようとしている。

			意して、正確に現代語訳する。（手引き１） ３謙信はどのような作戦を考え、また信玄はそれに対してどのような判断を下したかを読み取る。 ４信玄の武将としてのすばらしさを理解する。（手引き２） □謙信と信玄の武将としての人間性のすばらしさや力量について話し合う。	
古文編２　日記２（５月）				
読む 紫式部日記 P160 ２時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、カ	・作品の背景を踏まえながら日記を読み、内容の解釈を深める。	□『紫式部日記』前半の記事について理解する。 □登場人物（道長、頼通、宰相の君）について理解する。 **【女郎花】** １本文を読み、道長と作者とのやり取りの内容を的確に理解する。（語句と表現１） ２二人の詠んだ和歌を読み、それぞれの歌に表れる詠み手の心情を正確に読み取る。（手引き１） ３頼通に対する作者の評を把握する。（手引き２） ４最後の二行から、作者の心的傾向を理	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を

			解する。（手引き３） **【日本紀の御局】** １作者は「左衛門の内侍」の言動をどう思っているか、整理する。（手引き１） ２作者の漢学の才について、何をもとにどのように表現されているか、順を追ってまとめる。（手引き２） ３最後の一文に表れる作者の心情を考える。（手引き３） □「女郎花」と「日本紀の御局」の文体の相違について考える。（語句と表現１）	踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に作品の背景を踏まえながら日記を読み、今までの学習を生かして、内容の解釈を深めたり、作品の特徴を理解したりしようとしている。
読む 和泉式部日記 P164 ２時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、ク	・表現に注意しながら読むことを通して、作品の特色を多面的・多角的に理解する。	□日記の概要、和泉式部が勅撰集入集歌の多い歌人であり、『小倉百人一首』にも採られる有名な歌人であることを学ぶ。 **【夢よりもはかなき世の中を】** １本文を繰り返し読み、流麗な文体を味わう。 ２女の故宮への思い、帥宮との新たな恋に対する思いを理解する。（手引き１）（語句と表現１） ３贈られた橘の花の意味や贈答される和歌の内容を正確に読み取る。（手引き２・３）	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。

			4敬語について復習し、本文中での用法を理解する。(語句と表現２) **【有明の月に】** 1帥宮が来訪した時、女や侍女、召し使いの男がどのような対応をしたか、順を追って整理する。(手引き１)(語句と表現１) 2帥官の歌の内容を理解し、それに対する女の対応について理解する。(手引き２) 3この日記を物語と考える立場がある。どのような点からそう考えられるのか、話し合う。(手引き３) □既習の日記作品と比べて読み、感想を述べ合う。	・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に表現に注意しながら日記を読み、今までの学習を生かして、作品の特色を多面的・多角的に理解しようとしている。
読む 十六夜日記〔言語〕 P169 1時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表]読むこと⑴ア、イ、エ、ク ㊊読むこと⑵イ	・他の作品との関係を踏まえながら日記を読み、言語文化についての理解を広げる。	□作者や作品について調べる。 **【駿河路】** 1各地で詠まれた歌の内容を捉え、表現の特徴を整理する。(手引き１) 2本文と『伊勢物語』「東下り」を読み比べ、作者の感じた興趣を理解する。(言語活動１) □作者の母として、歌人としての心的傾	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。

			向について考える。 □この単元の三つの日記文学で、印象に残った点について感想を書く。	［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に本文と『伊勢物語』「東下り」とを読み比べ、今までの学習を生かして、言語文化についての理解を広げようとしている。
読む 〔言語〕日記を文語で書く P172 1時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ウ、オ、ク ㊟読むこと⑵ウ	・文語で日記を書くことを通して、古典の語彙や表現についての理解を深める。	□漢文日記の特色を踏まえたうえで、日記文学の特色を考え、発表する。 1「日記を文語で書く」ために、構想を練り、現代語で下書きする。（課題１） 2文語を用い、助動詞・助詞を適宜使って、清書する。（課題２） 3工夫した点、参考にした古典作品を発表する。（課題３） 4発表を受けて、観点をもとにお互いの作品を批評し合う。（課題４） □これまでに学んできた日記文学について改めて考える。また、思いついたことを発表する。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。

				・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に文語で日記を書き、今までの学習を生かして、古典の語彙や表現についての理解を深めようとしている。
古文編３　作り物語２（６月）				
読む 源氏物語（二）〔言語〕 P174 ６時間 ■古文の窓 16 六条院 ■古文の窓 17 『源氏物語』の世界 ■古文の窓 18 宇治十帖の女性たち	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、エ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ、キ、ク ㊟読むこと⑵イ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・作り物語を多面的・多角的な視点から読み、作品についての理解を深める。	□『源氏物語』に関する知識を確認する。 **【なにがしの院】** １一連の話として、情景を想像しながら内容を読み取る。 ２登場人物の行動を整理する。（手引き１）（語句と表現１） ３登場人物の心情を読解する。（手引き１） ４この話の続きを確認する。（手引き２） **【野宮の別れ】** １前半部分に描かれる風景や風情を、登場人物の心情に即して読み取る。（語句と表現１） ２引歌や詠歌に込められた登場人物の心情を読み取る。（手引き１） ３別れの場面における登場人物の心情を味読する。（手引き１） **【須磨の秋】** １第一、第二段落を読解し、引歌の効果について考える。（語句と表現１・２）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。

			2「恋ひわびて…」の歌に込められた光源氏の気持ちを考える。（手引き１） 3第一段落を暗唱する。 4第三段落を読解し、四首の和歌について、それぞれに詠み込まれている心情を考える。（手引き２） 5第四、第五段落を読解し、光源氏の、藤壺の宮と朱雀帝に対する気持ちを考える。（手引き１・２） **【夜深き鶏の声】** 1前半部分〔一八八・13 まで〕を読解し、光源氏および紫の上の心情・行動を整理する。（手引き１）（語句と表現１） 2二人の和歌に込められた気持ちを読解する。（手引き２）（語句と表現２） 3登場人物たちの居る所と立場を確認する。（古文の窓 16） 4後半部分を読解する。 5光源氏と紫の上が、互いに離れている間にどのような気持ちであったか読み取る。（手引き３） **【唐猫の綱】** 1全体を音読し、おおよその内容を把握する。 2第一、第二段落を現代語訳し、垣間見に至った経緯とその様子を読み取る。（語	・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に作り物語を多面的・多角的な視点から読み、今までの学習を生かして、作品についての理解を深めようとしている。

			句と表現１） ３第三段落を現代語訳し、夕霧と柏木の心理と行動の差異を読み取る。（手引き１・２）（語句と表現１） **【萩の上露】** １本文を読解する。（語句と表現１・２） ２和歌に注意して、登場人物の心情を読み取る。（手引き１・２） ３この場面における「露」について考察を深める。 ４紫の上の生涯を振り返る。（手引き３） ５『源氏物語』に関する知識を深める。（古文の窓 17） **【宇治の姫君たち】** １宇治の宮邸と、そこへ向かう薫の、状況や心情を読み取る。（手引き１） ２宮邸の合奏の音についての薫の感じ方の変化を読み取る。（手引き１） ３垣間見の場面を味読し、姫君たちの言動と、それに対する薫の心情を読み取る。（手引き２）（語句と表現１）（言語活動１） ４垣間見の終わり方を確認し、それに伴う登場人物の心情を読み取る。（手引き２）（言語活動１） ５これまでに学習した垣間見の場面を比	

			較する。（言語活動１） **【橘の小島】** １状況と、登場人物たちの心情を読み取る。（手引き２）（語句と表現１） ２和歌の修辞に留意しながら、登場人物の心情を読み取る。（手引き１・２）（語句と表現１） ３浮舟の人生について、考える。（古文の窓 18） □その結末を含め、『源氏物語』について、理解を深める。 □復習することで、『源氏物語』の卓越した表現を再確認する。	
漢文編２　詩３（７月）				
読む 李白と杜甫 P110 3 時間 ■漢文の窓５ 届く言葉と届かない言葉	［知技］⑴ア、イ、ウ／⑵イ ［思判表］読むこと ⑴ア、イ、エ、カ ［知技］⑵エ ［思判表］読むこと⑴エ、カ	・詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わい、近体詩と古体詩の違いを理解する。	□言語文化で学習した「漢詩の形式ときまり」をコピー配布したり、便覧などを利用したりして、漢詩のきまりや特色を思い出す。 **【秋浦歌】【独坐敬亭山】【早発白帝城】【送友人】【月下独酌】** １詩を正確に朗読し、書き下す。（手引き１） ２詩形・押韻・対句を確認する。（手引き２）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。

			3展開に注意して現代語訳し、それぞれの詩にうたわれた作者の心情、景観の描写を理解する。（手引き3） 4詩の発想の豊かさや、表現のおもしろさを理解する。 5李白の詩人としての評価を再確認する。 6「参考」の詩を読み、李白と交遊のあった杜甫の生涯や、詩に表れた杜甫の心情を理解する。 **【絶句】【月夜】【秋興】【登岳陽楼】【石壕吏】** 1詩を正確に朗読し、書き下す。（手引き1） 2詩形・押韻・対句を確認する。（手引き2）（語句と表現1） 3展開に注意して現代語訳し、それぞれの詩にうたわれた情景や作者の心情を理解する。（手引き3） 4詩に表現された社会に対する思いを理解する。 5杜甫の生涯や、詩人としての評価を再確認する。 6李白を慕う杜甫の思いについて理解を深める。（漢文の窓5）	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わい、今までの学習を生かして、詩の発想の豊かさや、表現のおもしろさを理解しようとしている。

			□印象に残った詩を選び、訳詩を試みる。	
■２学期				
古文編４　歴史物語２（９月）				
読む 大鏡（二） P210 ４時間 ■古文の窓 19 道長の栄華と望月の歌	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、エ、カ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。	□教科書内の系図（九八ページや二一二ページ）や便覧等を用いて、主な登場人物について調べる。 □「雲林院の菩提講」等を読み返し、場面設定を確認する。 **【三船の才】** １道長と公任の当時の関係を理解する。 ２「小倉山…」の歌を解釈し、用いられている修辞等からこの歌の特徴を挙げる。 ３公任が後悔している心情を考える。（手引き１） ４公任の人物像を、本文の公任の言動を	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。

			根拠にして考える。（手引き２） **【肝試し】** １兼家と道隆・道兼・道長の三兄弟、公任や花山天皇について、当時の身分や関係などを確認する。 ２花山天皇の言動から人物像を考える。（手引き２） ３道隆・道兼と道長との描写の対比を理解し、それぞれの人物像を読み取る。（手引き１・３） ４語り手の、道長への評価が書かれている箇所を確認する。 **【道長、伊周の競射】** １道長と道隆・伊周との関係を確認する。（手引き１・２） ２勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。（手引き１・２） ３勝負の結果を受けての道隆の心境と、その後の展開を考える。（手引き２） ４道長と伊周の人物像をそれぞれまとめる。（手引き１） **【隆家と道長】** １隆家の人物像をまとめる。（手引き１） ２道長の人物像をまとめる。（手引き２）	・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に歴史物語の人物関係や時代背景について調べ、今までの学習を生かして登場人物の心情や人物像についての理解を深めようとしている。

			3 隆家、道長の人物像を描くための、作者の工夫を考えてまとめる。 **【東三条院と道長】** 1 女院を中心に、登場人物の言動や心情などをまとめる。（手引き１） 2 語り手の考えをまとめる。（手引き２） □道長の「望月の歌」の内容と歌われた状況を確認する。（古文の窓 19）	
読む 〔言語〕伊周の人物像を読み比べる P 220 1 時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ウ、エ、キ、ク ㊟読むこと⑵イ	・同じ人物について書かれた複数の作品を読み比べ、それぞれの特徴を的確に捉える。	1『枕草子』「大納言殿参り給ひて」について、現代語訳を確認しながら内容を理解する。 2 伊周の人物像をまとめ、『大鏡』における伊周の人物像と比較する。（課題１） 3『大鏡』における伊周の人物像の描かれ方の理由について考えて発表する。（課題２） 4 別々の作品において語られている同じ人物の例について考える。（課題３） □「大鏡」が道長の人物像を描くのに、どのような工夫をしているかについて、教科書掲載教材ごとにまとめ、共通点を考える。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品

				や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に同じ人物を描いた複数の作品について読み比べ、今までの学習を生かしてそれぞれの差異がどこから来ているのか考えを深めようとしている。
漢文編３　史記２（９月）				
読む 荊軻伝 P122 ３時間 ■漢文の窓６ 士は己を知る者のために死す―「刺客列伝」	[知技] ⑴ア、ウ／⑵イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、カ [知技] ⑵エ [思判表] 読むこと⑴エ	・『史記』を読み、荊軻の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。	□教科書の地図〔一二三〕や便覧等を利用し、戦国時代末期の状況について理解する。 □教科書の導入の文〔一二二〕を読ませ、秦王・太子丹・田光・樊於期・荊軻の関係を整理する。 **【風蕭蕭兮易水寒】** １本文を音読する。 ２脚注・辞書等を参照して、語句・句法の意味、用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３各段落の内容を理解し、第一段落から第三段落への場面の展開を理解する。 ４旅立ちの際に荊軻が歌った歌の内容を理解し、歌にこめられた荊軻の心情を考える。（手引き２） ５辞書を利用して「而」の訓読の仕方と意味を確認する。（語句と表現１）	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に文章のおもしろさを味わい、今までの学習を生かして、自分に引きつけて人間のあり方について考察しようとしている。

			5辞書・便覧等を利用して、「また」と訓読する文字とその意味を確認する。（語句と表現２） **【図窮而匕首見】** 1本文を音読する。 2脚注・辞書等を参照して、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） 3第一段落を前半（初め～P.一二六・９の「軻既取図奏之。」まで）と後半（P.一二六・９の「秦王発図。」～P.一二七・11まで）とに分けて、登場人物の行動を整理し、話の展開を理解する。（手引き２） 4秦王を追い詰めていた荊軻が、第二段落において最期を迎えることとなる展開を理解するとともに、荊軻の心情を考える。（手引き２） 5「風蕭蕭兮易水寒」「図窮而匕首見」から読み取れる荊軻の人となりについて確認する。（手引き３） 6辞書・便覧等を利用して、「卒」「中」「就」の本文中における意味を確認し、その意味をそれぞれの字を含む二字熟語で考える。（語句と表現１）	

			□司馬遷が「刺客列伝」を著した意図について話し合う。（漢文の窓６） □参考「天下大定」を読み、秦が天下を統一する流れとその中の荊軻の位置づけを理解する。	
古文編５　評論（10 月）				
読む 俊頼髄脳 P228 １時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ	・構成を的確に捉えながら歌論を読み、内容の解釈を深める。	□本教材が「歌論」という特殊な内容であることを理解する。 □どのような人物が登場し、どのようなことがあったかを捉えながら、通読する。 **【鷹狩りの歌】** １文章全体の構成を把握する。 ２長能・道済と四条大納言とのやりとりの内容を読み取る。（手引き１） ３四条大納言の言葉の内容を読み取る。（手引き２）（語句と表現１） ４本文に述べられた四条大納言の和歌に対する考え方を、整理してまとめる。 □長能・道済と四条大納言がどのような人物として描かれているかまとめる。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に構成を捉えながら歌論を読み、今までの学習を生かして、内容の解釈を深めようとしている。

読む 無名抄 P230 1時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、カ	・歌論の内容を的確に捉えることを通して、考えを深める。	□既習の『方丈記』の作者、鴨長明の歌人としての一面を知る。 **【おもて歌のこと】** 1発話者と聞き手、仕手と受け手を把握する。（語句と表現１） 2「夕されば…」の歌について考える。(手引き１) 3「面影に…」の歌について考える。 4「み吉野の…」の歌について考える。(手引き２) □俊成が和歌の基本的理念とした「幽玄」について調べる。	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に歌論の内容を捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。
読む 正徹物語 P232 1時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこ	・漢詩も引用した歌論を読み、言語文化についての理	□『正徹物語』の作者、成立について知る。 **【ひとり雨聞く秋の夜すがら】**	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。

	と⑴ア、イ、エ、カ、ク	解を深める。	1 為秀の和歌についての正徹の解釈を理解する。（手引き１） 2 杜子美の詩の訓点の違いによる解釈の違いについて理解する。（手引き２） □誰に向けて何のために語った言説なのかを考え、話し合う。	・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に漢詩も引用している歌論を読み、今までの学習を生かして、言語文化についての理解を深めようとしている。
読む 無名草子 P234 2時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、カ	・他の作品などとの関係を踏まえながら文章の内容を的確に捉え、考えを深める。	□評論というジャンルについて整理する。 **【清少納言】** 1 冒頭の一文の内容を読み取る。 2 清少納言は、歌人として、および『枕草	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現

			子』の作者として、どのような人物と捉えられているかを読み取る。（手引き１） ３清少納言の晩年の伝承について、話し手はどのように捉えているかを把握する。（手引き２） **【紫式部】** １会話部分に注意しながら、『源氏物語』成立のいきさつについて読み取る。(手引き１・２） ２『紫式部日記』に関する記述と関連させつつ、話し手の捉えた紫式部の人物像を読み取る。（手引き３） □学習した二つの文章は、それぞれどのようなことについての評論か整理する。	の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に他の作品などとの関係を踏まえながら文章の内容を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。
読む 源氏物語玉の小櫛 P238 １時間 ■古文の窓 20 本居宣長以前の『源氏物語』論	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、カ [知技]⑴イ／⑵ア [思判表] 読むこと⑴エ	・背景を踏まえながら論旨を的確に捉え、考えを深める。	□本居宣長について、人物と作品に関する知識を整理する。 **【もののあはれの論】** １第一段落を読み、本評論が提議する問題点を整理する。 ２論中に示された具体例と、作者によるその解釈を把握する。（手引き１） ３「もののあはれ」に関する作者の結論を	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を

			まとめる。（手引き２） □「源氏物語」がどのように享受されてきたかを調べ、本教材の位置づけについて考察する。（古文の窓 20）	深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に背景を踏まえながら評論の論旨を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。
読む 花鏡〔言語〕 P241 １時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、エ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、カ、キ ㊟読むこと⑵ア	・自分と関係づけたり、関連することを調べたりしながら文章を読み、考えを広げる。	□現在、慣用句「初心忘るべからず」は、どのような意味で用いられるか、確認する。 □能楽、世阿弥、『花鏡』のおおよそを理解する。 **【初心を忘るべからず】** １「初心を忘るべからず」（教材）が、『花鏡』奥の段の「初心不可忘（初心忘るべからず）」三ケ条の一つであることを確認する。 ２「初心」の意味を捉え、第一段落の内容を読み取る。（手引き１） ３第二段落の内容を読み取る。（手引き	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。

			1） 4本文の構成や表現上の特色とその効果を考える。（語句と表現１） □「初心を忘るべからず」という作者の考えに対して、自分はどのように考えるか。自分の体験なども踏まえて発表する。（言語活動１） □「秘すれば花なり」など、世阿弥が残した他の言葉を調べる。（言語活動２）	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主]積極的に自分と関係づけたり、関連することを調べたりしながら文章を読み、今までの学習を生かして、自分の考えを広げようとしている。
読む 虚実皮膜論 P243 １時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表]読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、カ	・現代との関係にも注意しながら論旨を的確に捉え、考えを深める。	□作者と作品について調べ、おおよその知識を得る。 □歌舞伎や人形浄瑠璃について知るところを発表する。 1「実」の例を挙げ、「ある人」の発言内容を把握する。 2近松の答えから、「皮膜の間」がどのようなものか考える。（手引き１・２） □近松の主張に合う現代文化について考える。（手引き３）	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。

				・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に現代との関係にも注意しながら本文の論旨を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。
読む たはれ草 P245 1時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ	・構成に注意しながら論旨を的確に捉え、考えを広げる。	□作者の立場や人となり、作品が書かれた時代背景を知る。 **【訳語といふこと】** 1第一段落と第二段落の前半から、作者の経験を読み取る。(語句と表現1)(手引き1) 2第二段落後半から、作者の主張する「訳語」の必要性について理解する。(語句と表現1)(手引き2) □現代の外国語学習における、作者の主張とその有用性について検討する。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、

				感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に構成に注意しながら本文の論旨を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを広げようとしている。
読む 北辺随筆〔言語〕 P247 1時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、エ [思判表]読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、カ ㊟読むこと⑵ア	・自分と関係づけながら論旨を的確に捉え、読書について理解を深める。	□近世随筆としての特徴を備えた作品の概略と、作者やその父の事績について確認する。 **【読書の心得】** 1「千五百番歌合」の判詞の内容を理解する。 2作者が批判する読書のあり方とその根拠を読み取る。（手引き１）（語句と表現２） 3作者の主張とその根拠を読み取る。（語句と表現１）（手引き２） □読書についての作者の考えに対してどう思うか、発表する。（言語活動１）	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。

				[主] 積極的に自分と関係づけながら本文の論旨を的確に捉え、今までの学習を生かして、読書について理解を深めようとしている。
漢文編３　史記２（11 月）				
読む 韓信伝 P131 ３時間 ■漢文の窓７ 劉邦と漢の三傑	[知技]⑴ア、ウ／⑵イ、ウ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、カ [知技]⑵エ [思判表] 読むこと⑴エ	・『史記』を読み、韓信の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。	□韓信が、「鴻門の会」後、劉邦に仕え、漢の建国に大きく貢献し「国士無双」と称された人物であることを、教科書の注釈等を利用し確認させる。 **【俛出袴下】** １本文を音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き１） ３第一段落で若い韓信が周囲の人々からどのような人物だと思われていたかを整理する。 ４三つのエピソードから、韓信の信条や人柄を考え、人物像にまとめる。（手引き２） ５「韓信の股くぐり」の意味を調べる。（語句と表現１） **【背水陳】** １本文を音読する。 ２脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に文章のおもしろさを味わい、今までの学習を生かして、自分に引きつけて人間のあり方について考察しようとしている。

			1） 3趙との戦いで韓信が部隊をどのように配置したかを確認する。（手引き２） 4会戦の推移を時間軸に沿って整理する。 5韓信が取った策について、会戦に従軍した敵味方の人々の評価・感想をまとめる。 6本文中に出てくる漢字を使った熟語について調べる。（語句と表現１） 7「…できない」という意味を表す三つの表現の違いを理解する。（語句と表現２） **【狡兎死、良狗亨】** 1本文を音読する。 2脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き１）（語句と表現２） 3漂母と亭長に対する恩賞を対比することで、韓信の信条を復習する。 4屠殺場の若者に恩賞を与えた韓信の心情と、恩賞を与えたことが治世にどのような効果をもたらすか考える。 5鍾離昧をめぐる韓信の心情を考える。（手引き２）	

			6韓信に対する劉邦の心情を整理する。 7韓信の性格・心情を確認し、その悲劇の原因について考える。（手引き３）（漢文の窓７） □本単元の内容を出典とする故事成語について理解する。（語句と表現１）	
古文編６　作り物語３（11月）				
読む 落窪物語 P250 １時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ	・設定や表現の特色を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉える。	□この作品の成立時期、継子いじめの物語である内容についておおよそを理解する。 **【姫君の苦難】** １継母北の方の言葉を聞いた時の、少将と落窪の君の心情を把握する。（手引き１）（語句と表現１） ２おとど（父中納言）の言動に対する、少将と落窪の君の心情を理解する。（手引き２）（語句と表現２） □後記や作品紹介などを利用したり、調べたりして、この物語の概要を把握する。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、

				感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に設定や表現の特色を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉え、今までの学習を生かして、登場人物の心情を理解しようとしている。
読む 堤中納言物語 P253 1時間 ■古文の窓 21 物語の書きだしの工夫	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、オ [知技]⑴イ、エ／⑵ア [思判表] 読むこと⑴エ	・構成を踏まえながら内容を的確に捉え、考えを広げる。	□この作品の概要を理解し、「虫めづる姫君」の物語もこの作品に見られることを知る。 **【このついで】** 1 男の行動を追跡し、「児も返して、そのままになむゐられにし」という行動を取った理由を理解する。(手引き１)(語句と表現１) 2 二つ目の話の内容を整理する。(語句と表現２) 3「おぼつかな…」の歌に見える少将の君の心情を正確に読み取る。(手引き２) 4 この二つの話に語られる女性について感じたことを自由に話し合う。(手引き３) □「このついで」の構成・趣向を整理する。 □「このついで」の書きだしを確認する。(古文の窓 21)	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に構成を踏まえながら物語の内容を的確に捉え、今までの学

				習を生かして、自分の考えを広げようとしている。
読む とりかへばや物語 P257 1時間 ■古文の窓 22 『源氏物語』以降の物語	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・設定や人物の心情を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉える。	□『源氏物語』以後に成立した物語について、おおよそを理解する。 □『とりかへばや物語』が古『とりかへばや』の改作であることや物語の特色のおおよそを理解する。 **【人知れぬもの思ひ】** 1第一～第四段落を読み、登場人物の整理をする。また、二人の子どもたちがどのように描かれているか、理解する。（手引き１） 2第五段落を読み、二人の子の性格と好みなどをまとめる。（手引き１） 3父権大納言の思いをまとめる。（手引き２） □『とりかへばや物語』の新たな取り組みについて考える。 □『源氏物語』以降の物語の特色を理解する。（古文の窓 22）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に設定や人物の心情を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。
漢文編４　白楽天と日本文学（12 月）				

読む 白楽天〔言語〕 P142 3時間	**[知技]**⑴ア、イ、ウ／⑵ア、イ **[思判表] 読むこと**⑴ア、イ、エ、キ ㊊**読むこと**⑵イ	・長編の古詩を読み、物語的なおもしろさを味わう。	□教科書の注釈や資料集などを利用し、「玄宗皇帝」「楊貴妃」などについて、作品の理解に必要な程度、説明する。 □白楽天については、教科書の脚注を利用して説明する。 **【長恨歌】** 1 全体を範読に従って繰り返し朗読して、大体のあらすじを把握する。（手引き１） 2 全体を八つの場面に分け、その内容を把握する。（手引き２） 3 一、二、三場面から楊貴妃の生い立ち、美しさ、漢皇（玄宗）の様子や寵愛ぶり、それを取り巻く人々の対応などを読み取る。（語句と表現１） 4 三場面から安禄山の進攻による楊貴妃の死を捉える。 5 四場面から楊貴妃没後の行宮における漢皇（玄宗）の描写を読み取る。 6 四場面から長安に戻る途中での楊貴妃の死亡場所における情景を読み取る。 7 五場面から長安に戻った後の宮廷をはじめ漢皇（玄宗）の様子を読み取る。 8 六場面から道士による不思議な仙術を読み取る。	**[知技]** ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 **[思判表]** ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 **[主]** 積極的に白居易の「長恨歌」について調べ、今までの学習を生かして、日本文学に大きな影響を与えた理由について考察しようとしている。

			９七、八場面から仙山の様子と、そこに住む楊貴妃の霊魂と道士との幻想的な対応の表現を味わう。 10 七、八場面から二人の「誓い」の内容を把握する。（語句と表現２） 11「長恨歌」という題に込められた意味を考える。（手引き３） □参考の『源氏物語』（桐壺）及び『枕草子』（木の花は）を読んで、「長恨歌」からの影響を考える。（言語活動１・２） （漢文の窓８）	
読む 和漢朗詠集 P150 １時間 ■漢文の窓８ 白楽天と日本人	［知技］⑴ア、イ、ウ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、キ ［知技］⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・日本の文化と中国の文化との関係について理解を深める。	□教科書の注釈や資料集などを利用し、『和漢朗詠集』の概要を確認する。 □旧暦（太陰太陽暦）における四季の区分、「尽」が「晦日」であることを確認する。 **【三月尽】** **「留春春不住」「惆悵春帰留不得」** １白居易の二つの詩句について、教師の範読のあと斉読し、正しく朗読できるようにする。（手引き１） ２脚注を参考にしながら現代語訳し、各詩句の心情を考える。（手引き２） **「送春不用動舟車」**	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値につ

			1 菅原道真の詩句について、教師の範読のあと斉読し、正しく朗読できるようにする。（手引き１） 2 脚注を参考にしながら現代語訳し、各詩句の心情を考える。（手引き２） **「花もみな」「またも来む」** 1 紀貫之の和歌について、教師の範読のあと斉読し、正しく朗読できるようにする。（手引き１） 2 脚注を参考にしながら現代語訳し、各和歌の心情を考える。（手引き２） □繰り返し朗読する。（手引き１） □印象深い詩句や和歌を取り上げ、魅力を話し合う。（語句と表現１） □「三月尽」というテーマで俳句・短歌・詩を作ってみる。	いて考察している。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主] 積極的に詩句や和歌を読み味わい、どのような点が印象深いか、今までの学習を生かして説明しようとしている。
漢文編５　小説２（12 月）				
読む 小説―二編〔言語〕 P 154 1 時間	[知技]⑴ア、ウ／⑵イ [思判表] 読むこと⑴ア、ウ、キ ㊊ 読むこと⑵イ	・話の展開を捉え、そこに描かれている世界を読み味わい、ものの見方、感じ方を豊かにする。	□ I 部「小説１」や教科書「中国文学史年表」を確認する。 **【桃花源記】** 1 本文を正しく音読する。 2 段落ごとに、脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を確認する。（手引き	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確

			1）（語句と表現２） ３第一・二段落から対句表現を抜き出し、その表現効果を確認する。（語句と表現１） ４あらすじをまとめ、「桃花源記」の展開を理解する。（手引き２） ５「桃花源」とはどのような村か、箇条書きに整理して確認する。（手引き３） ６「桃花源記」の作者陶潜が、この作品を書いた思いについて考え、話し合う。 ７本文中の「小国寡民」の表現を踏まえた箇所を抜き出し、老子と陶潜が描く理想郷について考え、比較する。（言語活動１） **【離魂記】** １本文を正しく音読する。 ２段落ごとに、脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を確認する。（手引き１）（語句と表現１） ３登場人物の行動や発言を整理し、話の展開をまとめる。（手引き２・３） ４二人の「倩娘」とは、何者であったのかの確認を通して、「離魂記」の主題を理解する。	に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主]同じテーマを取り上げた複数の古典の作品や文章を積極的に読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について、今までの学習を生かして論述したり発表したりしている。
読む	[知技]⑵エ	・小説の内容を	□「桃花源記」と「離魂記」の現代に通じ	[知技]

〔言語〕本の帯を作ろう P162 1時間	[思判表] 読むこと⑴オ、ク ㊟読むこと⑵オ	踏まえて、読者の興味をひく表現を多角的に検討しながら、本の帯を作成する。	るテーマについての意見交換を通して、中国の志怪小説の面白さを確認する。 □帯の役割について確認する。 1帯作りをする作品を決める。 2裏表紙側の文面を作る。 3表紙側の文面を作る。 4文面を元に、実際に帯を作る。 □人の興味関心を引く表現方法とはどのようなものか考える。	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に本の帯の役割や形式について調べ、今までの学習を生かして魅力的な本の帯を作成しようとしている。
■3学期				
古文編7　俳諧（1月）				
読む 芭蕉 P262 1時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、ウ、カ	・俳文に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取り、考えを広げる。	□俳句の源流が俳諧にあることを知り、芭蕉及びその作品について、これまで学んだことを確認する。 **【富士川】** 1『野ざらし紀行』の旅の概要を知る。 2捨て子との遭遇を通して見られる、芭蕉の人生観・死生観について考える。（手引き1）（語句と表現1） 3芭蕉が伝統的な詩情に疑問を投げかけ、新たに創造した点を読み解く。 **【吉野の花】**	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確

			1 吉野の桜を見に行く師弟の浮き立つ気持ちを、文章と句の応答から読み取り、旅立つ心を理解する。 2 歌枕の絶景と古歌に魅了され、「風狂」の世界に遊ぶ感動の深さを理解する。（手引き２）（語句と表現１） □作風の変化を考えながら、芭蕉の俳諧を読み味わう。	に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に俳文に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取り、今までの学習を生かして、自分の考えを広げようとしている。
読む 蕪村 P265 1時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表]読むこと⑴ア、イ、ウ、カ	・表現の特色を踏まえながら、俳文の内容を的確に捉える。	□芭蕉以後の中興俳諧期（明和中頃～寛政中頃）に登場した蕪村が、芭蕉を慕い、芭蕉と同等の芸術的高みに至った俳人であることを知る。 **【月夜の卯兵衛】** 1 俳文を読み解き、発句の詠まれた情況を知る。 2 俳文と発句のつながりを考え、発句の俳諧性（おかしみ）を理解する。（手引き１） **【歳末弁】** 1 蕪村が歳末の世の中をどのように描いているか、典拠にした『徒然草』と比較しながら読み取る。 2 蕪村が「塵区」に対し、どのような行動をとったか読み取る。	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。

			3 芭蕉と蕪村の発句を比較し、蕪村の思いを読み取る。（手引き２） □芭蕉と蕪村は、古典や先人の伝統を踏まえつつ、新しい風雅を追究した俳人であることを知る。 □その他の俳人、例えば近世の小林一茶、近代の正岡子規などに、興味を持つ。	・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に表現の特色を踏まえながら、俳文の内容を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。
読む 去来抄〔言語〕 P267 1時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、ク ㊟読むこと⑵イ	・俳論の内容を的確に捉えるとともに、多面的・多角的な視点から考えを深める。	□『去来抄』の概略を聞き、芭蕉と去来、俳論と発句の関係を理解する。 **「行く春を…」** 1 芭蕉の発句を解釈する。 2 尚白の「ふる」の非難と、それに対する去来の実景・実感重視の反論、芭蕉の伝統的詩情の論を読解する。（手引き１） 3 去来の理解と芭蕉の感想を読み解く。（手引き２）（語句と表現１） **「岩鼻や…」** 1 洒堂の提案が、月と猿の伝統的な構図による取り合わせの、平凡な着想であることに気づく。（手引き１）（語句と表現１） 2「月の客」が、去来の意図と芭蕉の解釈とでは、どのように違っているのか、現代語訳して整理する。	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。

			3去来の言葉と句の鑑賞から、芭蕉の解釈の優れている点を考える。（手引き２） **「腫物に…」** 1「腫物に…」の句形と解釈について意見が分かれていることを理解する。(手引き１・３) 2四人の主張と論拠を整理し、それらに対する意見を考える。（語句と表現１）（言語活動１） □『去来抄』の俳論としての特色、芭蕉の教えの深さについて話し合う。	・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に俳論の内容を捉え、今までの学習を生かして、多面的・多角的な視点から自分の考えを深めようとしている。
読む 三冊子 P271 1時間	[知技]⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表] 読むこと⑴ア、イ、エ、カ	・俳論に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取り、考えを広げる。	□『三冊子』が『去来抄』と並んで、芭蕉の俳論を窺い知るうえで重要な俳論書であることを知る。 □既出の「吉野の花」や『去来抄』から、伝統と新しみについて、考えたことを発表する。 1第一章段の論点を整理し、俳諧の特性と「俳諧の誠」について理解する。（手引き１）（語句と表現１） 2第二章段を読み解き、「不易」「変化」と「風雅の誠」との関係を考える。（手引き２）（語句と表現１）	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意

			３第二章段の「誠の変化はみな師の俳諧なり。」の語から、俳諧に対する芭蕉の姿勢とはどのようなものか読み取る。 □『去来抄』と併せて、短詩型文学の背景にある思想の豊かさや、芸術を追究する妥協のない厳しい姿勢について考える。	して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に俳論に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取り、今までの学習を生かして、自分の考えを広げようとしている。
読む 〔言語〕連句をよむ P273 １時間	[知技]⑴イ、ウ、エ／⑵ア、イ [思判表]読むこと⑴イ、ウ、オ ㊟読むこと⑵ウ	・連句の特徴を踏まえながら作品を読んだり作ったりすることで、言語文化への理解を深める。	□俳諧のジャンルの中核に連句があることを知る。 １俳句と比べながら連句の概略を理解する。 ２例句をもとに発句・脇・第三の作法を理解する。 ３連句における規則について理解する。 ４例句をもとに連句におけるつながりと転じについて考察する。（課題１） ５学習活動２～４に基づき連句を創作する。（課題２） □「市中は」歌仙の全巻、あるいは、それ以外の連句を注釈書などで読み、連句のおもしろさについて気づいた点を発表する。	[知技] ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [主]積極的に連句の特徴を踏まえながら作品を読んだり作ったりし、今までの学習を生かして、言語文化への理解を深めようとしている。
古文編８　上代の文学（１月）				

読む 古事記 P276 1時間	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、ウ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、ウ、カ、ク	・上代の文学の特色を踏まえながら内容を的確に捉え、言語文化への理解を広げる。	□これまでに知っている日本神話を尋ね、『古事記』の成立年、編者、成立の過程などを確認する。 **【倭建命】** 1リード文も踏まえて、それまでの経緯を理解する。 2弟橘比売命の行為を読み解く。（手引き1） 3「吾妻はや。」と発した倭建命の心情と、地名起源について理解する。また、酒折の宮の逸話から、古代の言葉の霊性を理解する。（手引き1） 4伊服岐の山での倭建命の失敗について理解する。（手引き1） 5交互に出てくる地の文と歌謡の役割および歌謡に込められた心情について理解する。（手引き1・2） 6物語の結末について理解する。（手引き3） □上代の文学に特徴的な表現や、作品の特色についてまとめる。（語句と表現1）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に上代の文学の特色を踏まえながら内容を捉え、今までの学習を生かして、言語文化への理解を広げようとしている。
漢文編6　思想3（2月）				

読む 諸子百家 P164 5時間 ■漢文の窓9 始皇帝と韓非 ■漢文の窓10 諸子百家	[知技]⑴ア、ウ／⑵イ、ウ、エ [思判表]読むこと⑴ア、イ、ウ、オ、キ [知技]⑵エ [思判表]読むこと⑴エ、オ [知技]⑵エ [思判表]読むこと⑴エ	・各テーマに対する諸子百家の思想の違いを知り、ものの見方、考え方を豊かにする。	□教科書の「中国文学史年表」や、便覧、世界史の教科書等を参照し、春秋戦国時代が、時代を下るにつれ徐々に価値観が多様化し、政治が混乱していったことを理解する。 □孔子・孟子は「儒家」、老子は「道家」、孫子は「兵家」、墨子は「墨家」、韓非子は「法家」と呼ばれ、諸子百家のそれぞれが、時代の混乱を収束させるために活動したことを理解する。（漢文の窓10） **◆水のとらえ方** **【原泉混混】** 1本文を声に出して読む。 2本文を書き下し文にし、現代語訳する。 3孟子が善しとした水の性質についてまとめる。（手引き１・２） 4相反する水の性質を対比することで、孟子が何を主張しようとしたのかを読み解く。 **【天下莫柔弱於水】** 1本文を声に出して読む。 2本文を書き下し文にし、現代語訳する。 3老子が注目した水の性質についてまとめる。（手引き１・２）	[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主]文章内容からそれぞれの考え方を積極的に読み取り、その違いについて理解するとともに、今までの学習を生かして各テーマに対して自分自身の考えをまとめようとしている。

			【兵形象水】 １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３水にたとえられている兵学を理解し、何事も変化に対応することが重要であるということについて考える。（手引き１・２） ４本文中から、対句を指摘し、抜き出す。 **◆正直のあり方** **【直躬】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３「直躬」に対する、孔子と韓非子の評価の違いを考える。（手引き１・２） ４『韓非子』の、魯人に対する評価について考える。（手引き３） ５儒家と法家が、それぞれ何を最も優先させているかを押さえ、価値観の違いについて話し合う。（手引き３） **◆政治のあり方** **【能近取譬】** １本文を声に出して読む。 ２本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ３孔子が理想とした政治がどのようなものであったのかを読み取り、具体的にイメージする。（手引き１）	

			【無恒産無恒心】 1本文を声に出して読む。 2本文を書き下し文にし、現代語訳する。 3『孟子』に説かれる恒産の重要性と、君主の役割を理解する。（手引き１） **【無為之治】** 1本文を声に出して読む。 2本文を書き下し文にし、現代語訳する。 3「無為之治」とはどのような政治なのかを理解する。（手引き２） **【兼愛】** 1本文を声に出して読む。 2本文を書き下し文にし、現代語訳する。 3『墨子』における「兼相愛交相利之法」を理解し、政治に対する基本的な考え方を読み取る。（手引き３） **【侵官之害】** 1本文を声に出して読む。 2本文を書き下し文にし、現代語訳する。 3「典冠」と「典衣」の双方が罰せられた理由を理解する。 4『韓非子』が説く「明主」のあり方を理解する。（語句と表現１） 5韓非と始皇帝との関係を理解する。（漢文の窓９）	

			□儒家・道家・墨家・法家の政治に対する基本的な考え方を理解する。	
古文編８　上代の文学（２月）				
読む 万葉秀歌 P281 １時間 ■古文の窓 23 『万葉集』の表記	**［知技］**⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ **［思判表］読むこと**⑴ア、イ、ウ、オ **［知技］**⑴ア、イ／⑵ア **［思判表］読むこと**⑴エ	・表現の特色を踏まえながら、上代の和歌の内容を読み取る。	□ジャンル、おおよその成立年代、これまでの学習で知っている万葉歌人の名前などを確認し、文学史上の位置づけをする。 １句切れ、リズム、文脈に気を配りながら音読する。（手引き１） ２「岩代の…」の歌について、作歌の背景を知り、そこに詠まれている心情を読み取る。（手引き２） ３長歌の特徴や、長歌と短歌の機能の違い、『万葉集』の歌体などについての知識を確認する。 ４「やすみしし…」の長歌と、「安騎の野に…」以下の短歌四首に詠まれている情景や心情を、題材や修辞の特徴を踏まえて読み取る。（手引き２・３） ５「旅にして…」以下の短歌四首に詠まれている情景や心情を読み取る。（手引き２） □印象に残った歌の感想文を書く。（手引き４）	**［知技］** ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 **［思判表］** ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 **［主］**積極的に上代の表現の特色を理解し、今までの学習を生かして、和歌の内容を読み取ろうとしている。

			□『万葉集』原文（全字を漢字によって表記）を読み、漢字ですべて表記されていることを中心に感想を持ち、交流する。（古文の窓 23）	
漢文編７　文２（３月）				
読む 唐宋八大家の文章〔言語〕 P176 ２時間	**［知技］**⑴ア、ウ／⑵イ、ウ、エ **［思判表］読むこと**⑴ア、イ、ウ、オ ㊊**読むこと**⑵イ	・社会背景にも留意して、筆者の価値観や問題意識について考察を深め、文章にまとめる。	□それぞれの時代背景を調べて説明する。 □韓愈・柳宗元・欧陽脩それぞれについて理解する。 **【与孟東野書】** １本文を音読し、重要語や句法を確認して、書き下し、現代語訳する。（手引き１） ２第一、二、四段落から、作者の状況や心情をとらえる。 ３第三段落から、「孟東野」の境遇と作者の思いをとらえる。（手引き２） ４第五、六段落から、作者の「孟東野」に対する思いを読み取り、二人の友情について考える。（手引き３） ５現在と異なる意味で用いられる語句について調べる。（語句と表現１） **【捕蛇者説】** １本文を音読し、句法を確認して、現代語訳する。（手引き１）（語句と表現１）	**［知技］** ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 **［思判表］** ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 **［主］**唐宋八大家の経歴や作品を積極的に調べ、今までの学習を生かして調べた内容を工夫してまとめたり発表したりしようとしている。

			2第一段落から、「異蛇」の特徴をまとめる。 3第二、三段落から、「異蛇」をめぐる、「蔣氏」の境遇、筆者の提案、「蔣氏」の意見の要点をとらえる。（手引き２） 4第四段落から、筆者の考えをとらえ、この文章を書いた意図を考える。（手引き３） **【朋党論】** 1第一段落と第二段落を音読する。 2句法に注意して第一段落と第二段落を現代語訳する。 3第三段落と第四段落を音読する。 4句法に注意して第三段落と第四段落を現代語訳し、筆者の主張「臣謂…」の根拠をまとめる。（手引き 1） 5各段落の展開を整理して筆者の主張をまとめる。（手引き２） 6本文中の「為」の用法を確認し、他の用法を調べる。（語句と表現 1） 7参考「御製朋党論」を読み、皇帝が欧陽脩の「朋党論」を批判する根拠について考え、話し合う。（言語活動１・２） □現代人にとっての意義という観点から、三つの文章をとらえ直してみる。	

古文編９　近世小説２（３月）				
読む 雨月物語 P286 ２時間 ■古文の窓 24 中国小説の翻案	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ ［思判表］読むこと⑴ア、イ、エ、カ ［知技］⑴イ／⑵ア ［思判表］読むこと⑴エ	・展開や人物の心情を踏まえながら近世小説の内容を的確に捉え、考えを深める。	□上田秋成という作者と作品について調べ、大まかな知識を得る。 **【浅茅が宿】** １前段・中段・後段の時間の流れと話の概要を把握する。 ２表現に注意しながら前段を読み、勝四郎と宮木の人物像を読み取る。（手引き１） ３中段を読み、荒廃した故郷の様子、勝四郎と宮木のやりとりを読み取る。（手引き２・３） ４後段を読み、宮木の正体を知った勝四郎の心情を考える。（手引き３） □本文から特徴的な表現や描写を挙げ、その効果を考える。 □「浅茅が宿」のモチーフとなった作品について調べる。（古文の窓 24）	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に展開や人物の心情を踏まえながら近世小説の内容を捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。
古文編 10　古典の注釈（３月）				
読む 『小倉百人一首』の注釈を読む	［知技］⑴ア、イ、ウ、エ／⑵ア、イ、エ	・複数の解釈を自ら調べることで、古典が	□古典の注釈は古くからなされて来たことを知る。 □『小倉百人一首』についての基礎的な知	［知技］ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。

P296 2時間	［思判表］読むこと⑴エ、オ、キ、ク ㊟読むこと⑵ア	どのように受け継がれてきたかについて理解を深める。	識を確認する。 □『小倉百人一首』の注釈書について知る。 1第五番歌における問題点について三つの注釈書がそれぞれどのように主張しているかを読み取る。（課題１） 2「忘れじの…」の歌についてのさまざまな解釈を理解する。（課題２） 3注釈をもとに自分なりの解釈を考える。（課題２） □『小倉百人一首』の歌の解釈が分かれているものについて解釈の違いを調べ、自分なりの解釈を考える。（課題３）	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に複数の解釈を調べ、今までの学習を生かして、古典がどのように受け継がれてきたかについて理解を深めようとしている。